○近畿大学大学院学則

昭和27年４月１日
令和８年４月１日改正

第１章　総則

（目的）

第１条　本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。

２　本大学院は建学の精神に沿った教育理念を実践するため、研究科（法学研究科、商学研究科、経済学研究科及びシステム工学研究科を連係協力研究科とする研究科等連係課程実施基本組織である実学社会起業イノベーション学位プログラムを含む。以下同じ。）、専攻ごとに人材の養成に関する目的及びその他教育・研究上の具体的な目的を別記のとおり定めるものとする。

（課程）

第２条　本大学院に修士課程及び博士課程をおく。

２　修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

３　博士課程は、専門分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

４　博士課程は、前期課程と後期課程に区分し、又はこの区分を設けないものとする。前期及び後期の課程に区分する博士課程においては、その前期２年の課程は、これを修士課程として取り扱うものとする。ただし、医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻においては、前期、後期に区分しない。

（研究科）

第３条　（削除）

（研究科・専攻）

第４条　本大学院に次の研究科・専攻をおく。

法学研究科　法律学専攻
商学研究科　商学専攻
経済学研究科　経済学専攻
総合理工学研究科　理学専攻　物質系工学専攻　メカニックス系工学専攻　エレクトロニクス系工学専攻　環境系工学専攻　エネルギー理工学専攻　東大阪モノづくり専攻
建築学研究科　建築工学専攻　建築デザイン専攻
情報学研究科　情報学専攻
薬学研究科　薬学専攻　薬科学専攻
総合文化研究科　日本文学専攻　英語英米文学専攻　文化・社会学専攻　心理学専攻　ただし、修士課程とする。
農学研究科　農業生産科学専攻　水産学専攻　応用生命化学専攻　環境管理学専攻　バイオサイエンス専攻
生物理工学研究科　生物工学専攻　生体システム工学専攻
システム工学研究科　システム工学専攻
産業理工学研究科　産業理工学専攻
医学研究科　医学系専攻
実学社会起業イノベーション学位プログラム

（修業年限）

第５条　本大学院の修士課程の標準修業年限は、２年とする。

２　博士課程の標準修業年限は、５年とし、前期課程（以下「博士前期課程」という。）の標準修業年限は２年、後期課程（以下「博士後期課程」という。）の標準修業年限は、３年とする。

３　前項の規定にかかわらず、医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻博士課程の標準修業年限は、４年とする。

４　第１項及び第２項の規定にかかわらず、学生が職業を有しているなどの事情がある場合には、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、研究科委員会（学位プログラム委員会を含む。以下同じ。）の議を経て、学長は、

その計画的な履修を認めることができる。

（学生定員）

第６条　本大学院の学生定員は、次のとおりとする。

研究科	専攻	修士課程		博士前期課程		博士後期課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
法学研究科	法律学専攻			10(２)	20(４)	5	15
商学研究科	商学専攻			20(９)	40(18)	5	15
経済学研究科	経済学専攻			20(15)	40(30)	5	15
総合理工学研究科	理学専攻			40	80	2	6
	物質系工学専攻			40	80	2	6
	メカニックス系工学専攻			30	60	2	6
	エレクトロニクス系工学専攻			20	40	2	6
	環境系工学専攻			10	20	2	6
	エネルギー理工学専攻	15	30				
	東大阪モノづくり専攻			5	10	2	6
建築学研究科	建築工学専攻	15	30				
	建築デザイン専攻	10	20				
情報学研究科	情報学専攻	35	70				
薬学研究科	薬科学専攻			15	30	2	6
総合文化研究科	日本文学専攻	4	8				
	英語英米文学専攻	3	6				
	文化・社会学専攻	8	16				
	心理学専攻	6	12				
農学研究科	農業生産科学専攻			10	20	2	6
	水産学専攻			10	20	4	12
	応用生命化学専攻			14	28	5	15
	環境管理学専攻			10	20	2	6
	バイオサイエンス専攻			12	24	4	12
生物理工学研究科	生物工学専攻			16	32	3	9
	生体システム工学専攻			18	36	2	6
システム工学研究科	システム工学専攻			45(４)	90(８)	5	15
産業理工学研究科	産業理工学専攻			30	60	3	9
実学社会起業イノベーション学位プログラム							

※　括弧内の数字は、実学社会起業イノベーション学位プログラムに活用する入学定員及び収容定員を示す。

研究科	専攻	博士課程	
		入学定員	収容定員
医学研究科	医学系専攻	45	180
薬学研究科	薬学専攻	3	12

第２章　教育課程

（教育方法）

第７条　本大学院の教育は授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

（履修方法）

第８条　各研究科における授業科目、単位数及び履修方法は、別表(１)のとおりとする。

（授業の方法）

第８条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　研究科委員会は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（単位基準）

第９条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮するものとする。

２　各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育研究上必要があると認められる場合は、この期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（１）　講義及び演習等についての授業科目は、原則として15時間から30時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）　実験、実習及び実験的・臨床的研究等についての授業科目は、30時間から45時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって１単位とする。

（３）　一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は研究のうち二つ以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、第１号及び第２号に規定する基準を考慮して定める。

３　第１項及び第２項の規定にかかわらず、その学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる授業科目を開設する場合には、これらに必要な学修等を考慮して、その単位数を別に定めることができる。

（専修科目）

第10条　各研究科の選択必修の授業科目の中から選定した１科目をその学生の専修科目とする。ただし、農学研究科においては、専攻分野の中から選定した１分野の授業科目を、また医学研究科においては専攻分野の中から選定した１分野の選択必修科目をその学生の専修科目とする。

（指導教員）

第11条　専修科目を担当する教員をその学生の指導教員とする。

２　学生は、指導教員の研究指導並びに授業科目の選択等研究一般に関する指導を受けなければならない。

（他の大学院における授業科目の履修）

第12条　各研究科委員会において教育研究上有益と認めるときは、他の大学院（外国の大学院を含む。）の授業科目を履修させることができる。

２　前項の規定により修得した単位は、15単位を超えない範囲で、現に在籍している課程における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

３　各研究科委員会において教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院又は研究所等と予め協議のうえ、学生が当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程又は博士前期課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、１年を超えないものとする。

（本大学院の他の研究科における授業科目の履修）

第12条の２　各研究科委員会において教育研究上有益と認めるときは、本大学院の他の研究科の授業科目を履修させることができる。

２　前項の規定により修得した単位は、現に在籍している課程における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。単位認定の上限は別途定める。

（入学前の既修得単位の認定）

第12条の３　各研究科委員会において教育研究上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について履修した単位（科目等履修生として修得した単位を含

む。）を、現に在籍している課程に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定により修得した単位は、現に在籍している課程において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとする。

３　第１項、第12条第２項又は第12条の２第２項の定めにより修得したものとみなし、与えることのできる単位数は、合わせて20単位を超えないものとする。

（教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程）

第13条　本大学院において、教育職員免許状を取得しようとする者は、各研究科配当の関係科目の中から教育職員免許法及び同施行規則に定める必要な単位数を修得しなければならない。ただし、一種免許状の取得資格を有する者に限る。

第14条　本大学院において、取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりである。

研究科	専攻	免許状の種類	
法学研究科	法律学専攻	高等学校専修	公民
商学研究科	商学専攻	高等学校専修	商業
経済学研究科	経済学専攻	高等学校専修	地理歴史
		高等学校専修	公民
		高等学校専修	商業
総合理工学研究科	理学専攻	中学校専修	数学
		高等学校専修	数学
		中学校専修	理科
		高等学校専修	理科
	物質系工学専攻	中学校専修	理科
		高等学校専修	理科
	メカニックス系工学専攻	高等学校専修	工業
	エレクトロニクス系工学専攻	高等学校専修	工業
	環境系工学専攻	高等学校専修	工業
	エネルギー理工学専攻	中学校専修	理科
		高等学校専修	理科
総合文化研究科	日本文学専攻	中学校専修	国語
		高等学校専修	国語
	英語英米文学専攻	中学校専修	英語
		高等学校専修	英語
	文化・社会学専攻	中学校専修	社会
		高等学校専修	地理歴史
		高等学校専修	公民
	心理学専攻	高等学校専修	公民
農学研究科	農業生産科学専攻	高等学校専修	農業
	水産学専攻	高等学校専修	水産
	応用生命化学専攻	中学校専修	理科
		高等学校専修	理科
	環境管理学専攻	高等学校専修	農業
	バイオサイエンス専攻	中学校専修	理科
		高等学校専修	理科
生物理工学研究科	生物工学専攻	中学校専修	理科
		高等学校専修	理科
	生体システム工学専攻	中学校専修	数学
		高等学校専修	数学
システム工学研究科		中学校専修	理科

	システム工学専攻	高等学校専修 中学校専修 高等学校専修 高等学校専修	理科 技術 工業 情報
産業理工学研究科	産業理工学専攻	高等学校専修	工業

第３章　試験及び課程の修了

（試験）

第15条　大学院における正規の授業を受けて、所定の授業科目を履修した者に対しては、学期末又は学年末に試験を行う。ただし、研究報告の提出をもってこれに代えることができる。

（成績・単位）

第16条　試験の成績は優・良・可及び不可で示し、可以上を合格とする。ただし、演習及び実験については、「合格」をもって示すことがある。

２　合格した授業科目については、所定の単位を与える。

（課程の修了）

第17条　修士課程又は博士前期課程に２年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格した者をもって修士課程を修了したものとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。

２　第２条第４項の規定により修士課程として取り扱うものとする博士課程の前期の課程の修了の要件は、当該博士課程の目的を達成するために必要と認められる場合、前項に規定する大学院の行う修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することに代えて、大学院が行う次に掲げる試験及び審査に合格することとすることができる。

（１）　専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期の課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験

（２）　博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期の課程において修得すべきものについての審査

３　博士後期課程に３年以上（医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻博士課程においては４年以上。）在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者をもって博士課程を修了したものとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に３年（修士課程又は博士前期課程に２年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における２年の在学期間を含む。）以上、また医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻にあっては、博士課程に３年以上在学すれば足りるものとする。

４　前項の規定にかかわらず、本学則第36条第１項第４号の規定により、大学院への入学資格に関し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士後期課程に入学した場合は、大学院に３年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者をもってその課程を修了したものとする。ただし、在学期間に関しては優れた研究業績を上げた者については、大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻にあっては、この規定は適用しない。

（最長在学年数）

第18条　本大学院における最長在学年数は、修士課程及び博士前期課程においては４年、博士後期課程においては６年とする。医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻博士課程においては８年とする。

第４章　学位及びその授与

（修士の学位）

第19条　修士の学位は、修士課程又は博士前期課程を修了した者に授与する。

２　修士の学位は、その修了した研究科に応じて次のとおり区分する。

法学研究科	修士（法学）	（近畿大学）
商学研究科	修士（商学）	（近畿大学）
経済学研究科	修士（経済学）	（近畿大学）
総合理工学研究科	修士（理学）	（近畿大学）

	修士（工学）	（近畿大学）
	修士（理工学）	（近畿大学）
建築学研究科	修士（工学）	（近畿大学）
	修士（建築学）	（近畿大学）
情報学研究科	修士（工学）	（近畿大学）
薬学研究科	修士（薬科学）	（近畿大学）
総合文化研究科	修士（文学）	（近畿大学）
	修士（文化学）	（近畿大学）
	修士（社会学）	（近畿大学）
	修士（心理学）	（近畿大学）
農学研究科	修士（農学）	（近畿大学）
生物理工学研究科	修士（工学）	（近畿大学）
システム工学研究科	修士（工学）	（近畿大学）
産業理工学研究科	修士（工学）	（近畿大学）
実学社会起業イノベーション学位プログラム	修士（学術）	（近畿大学）

（博士の学位）

第20条　博士の学位は、博士後期課程（医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻においては博士課程）を修了した者に授与する。

法学研究科	博士（法学）	（近畿大学）
商学研究科	博士（商学）	（近畿大学）
経済学研究科	博士（経済学）	（近畿大学）
総合理工学研究科	博士（理学）	（近畿大学）
	博士（工学）	（近畿大学）
薬学研究科	博士（薬学）	（近畿大学）
	博士（薬科学）	（近畿大学）
農学研究科	博士（農学）	（近畿大学）
生物理工学研究科	博士（工学）	（近畿大学）
システム工学研究科	博士（工学）	（近畿大学）
産業理工学研究科	博士（工学）	（近畿大学）
医学研究科	博士（医学）	（近畿大学）

第21条　前条第１項に定めるもののほか、本大学院の博士課程を経ずして博士の学位を得ようとする者について、本大学院の行う博士論文の審査に合格し、かつ、本大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認されたとき博士の学位を授与する。

（論文審査）

第22条　修士の学位論文又は特定の課題についての研究成果は、在学期間中に提出し、審査を終了するものとする。

２　博士の学位又は特定の課題についての研究成果は、本大学院において論文又は特定の成果課題を受理した後、１年以内に審査を終了するものとする。

第23条　学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査は、専修科目及びこれに関連のある科目の教員によってこれを行う。ただし、必要がある場合は他の審査委員（本学他研究科教員、他大学教員等学外審査委員を含む）を加えることができる。

２　最終試験は学位論文又は特定の課題についての研究成果を中心にして、これに関連ある学科目について行う。

３　学位授与は、学長がこれを行う。

（学位規程）

第24条　学位及びその授与については、本章のほか近畿大学学位規程に定める。

第５章　教員組織及び運営機構

（大学院教員）

第25条　本大学院の授業及び研究指導を担当する者は、大学院設置基準に規定する資格に該当する本学の教員をもってこれにあてる。

（大学院委員会）

第26条　本大学院に、学長を補佐する機関として、大学院委員会をおく。

２　大学院委員会は大学院部長、各研究科長（学位プログラム長を含む。以下同じ。）及び各研究科委員会の委員若干名をもって組織する。

（招集及び会議）

第27条　大学院委員会は、学長がこれを招集し、大学院部長がその議長となる。

２　大学院部長は、審議された結果について学長に報告するものとする。

第28条　大学院委員会は、次の事項を審議する。

（１）　大学院学則及び諸規程の変更に関する事項

（２）　大学院教員の審査に関する事項

（３）　学位の授与に関する事項

（４）　その他各研究科に共通する重要な事項

（研究科委員会）

第29条　本大学院の各研究科に、教育研究に関する専門的な事項を審議する機関として、研究科委員会をおく。

２　研究科委員会は、各研究科の授業を担当する教授をもって組織する。ただし、必要があるときは授業を担当するその他の教員を加えることができる。

３　研究科委員会は当該研究科長が招集して、その議長となる。

第30条　研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

（１）　学生の入学及び課程の修了

（２）　学位の授与

（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

２　研究科委員会は、前項に規定するもののほか、次の各号に掲げる事項並びに学長及び研究科長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（１）　教育課程に関する事項

（２）　授業科目担当者の選考に関する事項

（３）　学生の退学・休学及び復学に関する事項

（４）　試験に関する事項

（５）　学位論文の審査に関する事項

（６）　教育及び研究に関する事項

（７）　学生の補導に関する事項

（８）　その他研究科に関する事項

（学務の総轄）

第31条　大学院の学務は大学院部長が総轄し、各研究科の学務は研究科長が処理する。

第６章　学年・学期及び休業日

（学年・学期）

第32条　本大学院の学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終る。

２　学年は、これを２期に分け、４月１日から９月20日までを前期とし、９月21日から翌年３月31日までを後期とする。

３　学長は、前項の後期開始日を変更することができる。なお、後期開始日を変更した場合は、その前日をもって前期の終了とする。

（休業日）

第33条　休業日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日・国民の祝日・本学創立記念日（11月５日）

（２）　春期休暇　３月20日から４月９日まで

（３） 夏期休暇　７月21日から９月20日まで
（４） 冬期休暇　12月21日から翌年１月９日まで
２　学長は、前項各号に規定する休業日を変更し、又は臨時休業の日を定めることができる。

第７章　入学・転学・休学・退学・除籍・復学・再入学及び復籍

（入学）
第34条　入学時期は、毎年４月とする。ただし、教育上有益と認めるときは、９月に入学を認めることができる。
（入学資格）
第35条　修士課程及び博士前期課程に入学することのできる者は､次の各号の一に該当する者とする。
（１） 大学を卒業した者
（２） 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
（３） 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
（４） 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
（５） 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
（６） 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）又は専攻科（当該専攻科を置く専修学校の特定専門課程における教育との連続性に配慮した教育課程を編成していることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
（７） 文部科学大臣の指定した者
（８） 本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で22歳に達した者
（９） 本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
２　医学研究科並びに薬学研究科薬学専攻博士課程に入学することのできる者は次の各号の一に該当する者とする。
（１） 大学の医学・歯学、獣医学又は薬学を履修する課程を卒業した者
（２） 外国において学校教育における18年の課程を修了した者
（３） 文部科学大臣の指定した者
（４） 本大学院において個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で24才に達した者
（５） 本大学院において第１号に定める課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
第36条　博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
（１） 修士の学位を有する者
（２） 専門職学位を有する者
（３） 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
（４） 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
（５） 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
（６） 文部科学大臣の指定した者
（７） 本大学院において個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で24才に達した者
（８） 大学を卒業した後、大学、研究所等において、２年以上研究に従事した者で、本大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
（入学・進学試験）
第37条　本大学院に所定の手続きを経て出願した者のうち、本大学院が行う入学試験に合格した者に対して入学を許可する。

２　本大学院博士前期課程修了者が博士後期課程に進学を志願するときは、前項に準じ進学試験を行う。

（入学手続）

第38条　入学を許可された者は、指定された期日までに別表(２)に定める入学金及び授業料並びに関係諸会費を納入するとともに、学生規程に定める手続に従い入学手続を完了しなければならない。

（休学）

第39条　病気その他やむを得ない理由で３ヵ月以上就学できないときは、その事実を証明する書類を添えて願い出て、その許可を得て休学することができる。

２　休学期間は、休学を許可された日から当該学期末又は当該年度末までとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することができる。

３　休学できる期間は、連続して２年以内、通算して修業年限以内とする。

４　休学中の期間は、在学年数に算入しない。

５　休学中は、別に定める在籍料を納入しなければならない。

（復学）

第40条　休学者が休学の理由がやんだときは､復学を願い出てその許可を得て復学することができる。

（退学）

第41条　本大学院を退学しようとする者は、退学届を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事情のある場合はこの限りでない。

（除籍）

第41条の２　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

（１）　第18条に定める最長在学年数を超えた者

（２）　第39条第２項に定める休学を許可された期間を超えてなお復学又は退学しない者

（３）　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

（４）　新入生で学生証の交付手続きを行わない者、その他本大学において修学する意思がないと認められる者

（５）　１年間以上にわたり行方不明の者

（再入学）

第42条　本学則第41条の規定によって退学した者が、退学した年度から起算して翌年度又は翌々年度の３月１日から３月７日までに再入学を願い出たときは、学年の始めに限り審査のうえ、許可することがある。

２　本学則第41条の規定によって退学した者のうち、標準修業年限を在学するとともに所定の単位を修得していた者が、博士論文の提出を目的として再入学を願い出たときは、審査のうえ、許可することがある。ただし、退学の日から３年以内に願い出た者に限る。

３　再入学後の在学年限は、退学前の在学年数を通算して本学則第18条に規定する最長在学年数を超えることができない。

（復籍）

第42条の２　学費未納による除籍者については、別に定めるところにより審査のうえ、復籍を許可することがある。

（転学）

第43条　本大学院から他の大学院に転学しようとする者は、理由を付して、願い出て許可を得なければならない。

（強制休学）

第44条　校医が健康上の理由により修学が不適当と認めた学生に対しては､休学を命ずることがある。

第８章　学費等

（学費等）

第45条　入学金及び授業料並びに入学検定料の額は、別表(２)のとおりである。

（授業料等の納付）

第46条　授業料及び関係諸会費（以下「授業料等」という。）は、毎学期始め所定の期日までに納付しなければならない｡ただし､事情によって別に定めるところによりこれを分納することができる。

２　学期の中途で退学した者又は除籍された者も、当該期分の授業料等を納入しなければならない。

（学費納入要項）
第47条　学費等については、この学則に定めるほか、別に定める学費納入要項による。
第９章　賞罰
（表彰）
第48条　品行方正、学力優秀な者又は奇特の行為のあった者に対しては、これを表彰することがある。
（懲戒）
第49条　学則その他諸規則に違反し、本学の秩序を乱し、又は性行不良その他学生の本分にもとる行為のあった者に対しては、懲戒として情状により譴責、停学又は退学の処分を行う。
２　次の各号の一に該当する者には退学を命ずる。
（１）　性行不良で改善の見込がないと認められる者
（２）　学業を怠り、成業の見込がないと認められる者
（３）　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
第49条の２　前２条の表彰及び懲戒は、必要に応じ賞罰委員会又は大学協議会で審議するものとする。
２　賞罰委員会に関する事項は、別に定める。
第10章　委託生・科目等履修生・研究生及び外国人留学生
（委託生）
第50条　公共団体又はその他の機関から本大学院の特定科目について修学を委託されたときは、正規の学生の研究に妨げのない範囲内において選考のうえ、委託生として許可することがある。
（科目等履修生）
第51条　本大学院の一又は複数の科目を履修し、単位の修得を希望する者があるときは、選考のうえ、科目等履修生としてこれを許可することができる。ただし、修士課程、博士前期課程及び博士課程（医学研究科）の授業科目に限る。
２　科目等履修生については、この学則に定めるもののほか、別に定める。
第51条の２　本大学学部４年次に在籍する学生で、成績優秀と認められ、かつ本大学院の一又は複数の科目を履修し、単位の修得を希望するときは、選考のうえ、特別科目等履修生としてこれを許可することができる。ただし、博士課程（医学研究科）の許可については、本学医学部に在籍する４年次以降の学生に限る。
２　特別科目等履修生として修得した単位については、当該単位を取得した本大学院修士課程、博士前期課程又は博士課程（医学研究科）に入学した場合に、申請によりその科目を当該課程において履修し、単位を修得したものとみなすことができる。これにより、当該課程において単位を修得したものとみなすことが認められた科目については、当該課程において再度履修することはできない。
３　特別科目等履修生については、この学則に定めるもののほか、別に定める。
（証明書）
第52条　委託生は、履修した科目について試験を受けることができる。試験に合格した者は、願い出によって証明書を与える。
（学則適用除外）
第52条の２　科目等履修生及び委託生には、第17条及び第19条は適用しない。
（研究生）
第53条　本大学院の博士の学位を得た者又は博士後期課程若しくは博士課程に標準修業年限以上在学したうえで所定の単位を修得して退学した者が研究の継続を希望するときは、正規の学生の研究に妨げのない範囲内において選考のうえ、研究生として許可することがある。
（外国人留学生）
第54条　本学則に規定する入学資格を有し、かつ、外国公館の証明ある外国人学生は、選考のうえ、入学を許可することがある。
（学則の準用）
第55条　特別の規定のない限りこの学則の規定は、委託生、科目等履修生、研究生及び外国人留学生にもこれを準用する。
第11章　奨学生
（奨学生）
第56条　学力優秀、品行方正で学生の模範と認められた学生を選んで奨学生とすることがある。

２　奨学生に対しては、学費の全部又は一部を貸与する。
３　奨学生に関する事項は、別に定める。

第12章　研究及び厚生施設

（研究室）

第57条　学生の研究指導を行うため各研究科にその専攻部門に応じて研究室をおく。

２　各学部及び研究所の施設は､必要に応じ大学院学生の研究及び指導のために用いることができる。

（厚生施設）

第58条　本大学院学生は、本学の厚生保健施設を利用することができる。

第13章　雑則

（連合教職大学院）

第59条　連合教職大学院を構成する大学院として、大阪教育大学大学院連合教職実践研究科高度教職開発専攻における教育研究に協力するものとする。

附　則

この学則は、昭和27年４月１日から施行する。

附　則（平成元年４月１日）

この学則の改正は、平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成２年４月１日）

この学則の改正は、平成２年４月１日から施行する。

附　則（平成３年４月１日）

この学則の改正は、平成３年４月１日から施行する。

附　則（平成４年４月１日）

この学則の改正は、平成４年４月１日から施行する。

附　則（平成５年４月１日）

この学則の改正は、平成５年４月１日から施行する。

附　則（平成６年４月１日）

この学則の改正は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成７年４月１日）

この学則の改正は、平成７年４月１日から施行する。

附　則（平成８年４月１日）

この学則の改正は、平成８年４月１日から施行する。

附　則（平成９年４月１日）

この学則の改正は、平成９年４月１日から施行する。

附　則（平成10年４月１日）

この学則の改正は、平成10年４月１日から施行する。

附　則（平成11年４月１日）

（施行期日）

１　この学則の改正は、平成11年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　化学研究科（化学専攻博士前期課程・博士後期課程）及び工学研究科（応用化学専攻博士前期課程・博士後期課程、機械工学専攻博士前期課程・博士後期課程、土木工学専攻博士前期課程・博士後期課程、電子工学専攻博士前期課程・博士後期課程、建築学専攻修士課程）は、改正後の近畿大学大学院学則（以下「新大学院学則」という）第３条（研究科）、第４条（専攻）、第６条（学生定員）、第19条（修士の学位）及び第20条（博士の学位）の規定にかかわらず、平成11年３月31日現在に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

３　農学研究科農芸化学専攻の応用生命化学専攻への名称変更に伴う第４条（専攻）、第６条（学生定員）及び第14条の改正は、平成11年４月１日から施行し、農学研究科応用生命化学専攻の名称は、施行日現在当該専攻に在学する者全員について適用する。

４　平成10年度以前に入学した者の取得することができる教員免許状取得資格の種類及び教科については、新大学院学則第14条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

５　平成11年３月31日現在本学大学院に在学していた者で平成11年度以後も引き続き在学する者の授

業料については、新大学院学則別表(２)にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成12年４月１日）

この学則の改正は、平成12年４月１日から施行する。

附　則（平成13年４月１日）

この学則の改正は、平成13年４月１日から施行する。

附　則（平成14年４月１日）

この学則の改正は、平成14年４月１日から施行する。

附　則（平成15年４月１日）

１　この学則の改正は、平成15年４月１日から施行する。

２　文芸学研究科英米文学専攻は、平成15年４月１日から学生募集停止する。

（経過措置）

３　文芸学研究科英米文学専攻は改正後の第４条（専攻）及び第６条（学生定員）の規定にかかわらず、平成15年３月31日現在に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成16年４月１日）

この学則の改正は、平成16年４月１日から施行する。

附　則（平成17年４月１日）

１　この学則の改正は、平成17年４月１日から施行する。

２　農学研究科農学専攻、国際資源管理学専攻及び工業技術研究科は平成17年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

３　農学研究科農学専攻、国際資源管理学専攻及び工業技術研究科は改正後の第３条（研究科）、第４条（専攻）、第６条（学生定員）、第19条（修士の学位）、第20条（博士の学位）の規定にかかわらず、平成17年３月31日現在に当該研究科及び専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成18年４月１日）

この学則の改正は、平成18年４月１日から施行する。

附　則（平成19年４月１日）

この学則の改正は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成20年４月１日）

１　この学則の改正は、平成20年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　医学研究科の生理学系専攻、病理学系専攻、社会医学系専攻、内科学系専攻、外科学系専攻は改正後の第４条（専攻）及び第６条（学生定員）の規定にかかわらず平成20年３月31日に、当該専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成21年４月１日）

この学則の改正は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成22年４月１日）

１　この学則の改正は、平成22年４月１日から施行する。

２　薬学研究科薬学専攻は、平成22年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

３　薬学研究科薬学専攻は改正後の第４条（専攻）、第６条（定員）、第19条（修士の学位）の規定にかかわらず、平成22年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成23年４月１日）

この学則の改正は、平成23年４月１日から施行する。

附　則（平成24年４月１日）

１　この学則の改正は、平成24年４月１日から施行する。

２　薬学研究科薬学専攻博士後期課程は、平成24年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

3　薬学研究科薬学専攻博士後期課程は改正後の第４条（専攻）、第６条（定員）の規定にかかわらず、平成24年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成25年４月１日）

1　この学則の改正は、平成25年４月１日から施行する。

2　産業技術研究科博士前期課程は、平成25年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

3　産業技術研究科博士前期課程は改正後の第６条（学生定員）、第19条（修士の学位）の規定にかかわらず、平成25年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成26年４月１日）

1　この学則の改正は、平成26年４月１日から施行する。

2　文芸学研究科は、平成26年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

3　文芸学研究科は改正後の第３条（研究科）、第４条（専攻）、第６条（学生定員）及び第19条（修士の学位）の規定にかかわらず、平成26年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

4　生物理工学研究科電子システム情報工学専攻博士前期課程及び機械制御工学専攻は、平成26年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

5　生物理工学研究科電子システム情報工学専攻博士前期課程及び機械制御工学専攻は改正後の第４条（専攻）及び第６条（学生定員）の規定にかかわらず、平成26年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成27年４月１日）

1　この学則の改正は、平成27年４月１日から施行する。

2　産業技術研究科博士後期課程は、平成27年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

3　産業技術研究科博士後期課程は改正後の第３条（研究科）、第４条（専攻）、第６条（学生定員）、第14条（教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程）、第20条（博士の学位）の規定にかかわらず、平成27年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成28年４月１日）

1　この学則の改正は、平成28年４月１日から施行する。

2　生物理工学研究科電子システム情報工学専攻博士後期課程は、平成28年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

3　生物理工学研究科電子システム情報工学専攻博士後期課程は改正後の第４条（専攻）及び第６条（学生定員）の規定にかかわらず、平成28年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成29年４月１日）

この学則の改正は、平成29年４月１日から施行する。

附　則（平成30年４月１日）

この学則の改正は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成30年６月１日）

この学則の改正は、平成30年６月１日から施行する。

附　則（平成31年４月１日）

この学則の改正は、平成31年４月１日から施行する。

附　則（令和２年４月１日）

1　この学則の改正は、令和２年４月１日から施行する。

2　別表(２)の改正は、令和２年度以降の入学生を対象とする。

附　則（令和３年４月１日）

この学則の改正は、令和３年４月１日から施行する。

附　則（令和４年４月１日）

この学則の改正は、令和４年４月１日から施行する。

附　則（令和５年４月１日）

この学則の改正は、令和５年４月１日から施行する。

附　則（令和６年４月１日）

この学則の改正は、令和６年４月１日から施行する。

附　則（令和７年４月１日）

この学則の改正は、令和７年４月１日から施行する。

附　則（令和７年７月１日）

この学則の改正は、令和７年７月１日から施行する。

附　則（令和８年４月１日）

１　この学則の改正は、令和８年４月１日から施行する。

２　総合理工学研究科建築デザイン専攻修士課程は、令和８年４月１日から学生募集を停止する。

（経過措置）

３　総合理工学研究科建築デザイン専攻修士課程は改正後の第４条（研究科・専攻）及び第６条（学生定員）の規定にかかわらず、令和８年３月31日現在に当該専攻に在籍する者がいなくなるまでの間、存続するものとする。

別表（１）　授業科目及び単位数

法学研究科

法律学専攻　博士前期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
民法特論ＩＡ		2	
民法特論ＩＢ		2	
民法特論ⅡＡ		2	
民法特論ⅡＢ		2	
民法特論ⅢＡ		2	
民法特論ⅢＢ		2	
民法特論ⅣＡ		2	
民法特論ⅣＢ		2	
商法特論ＩＡ		2	
商法特論ＩＢ		2	
商法特論ⅡＡ		2	
商法特論ⅡＢ		2	
商法特論ⅢＡ		2	
商法特論ⅢＢ		2	
知的財産法特論Ａ		2	
知的財産法特論Ｂ		2	
民事訴訟法特論Ａ		2	
民事訴訟法特論Ｂ		2	
憲法特論ＩＡ		2	
憲法特論ＩＢ		2	
憲法特論ⅡＡ		2	
憲法特論ⅡＢ		2	
行政法特論Ａ		2	
行政法特論Ｂ		2	
租税法特論Ａ		2	

租税法特論Ｂ		2	
刑事法特論ＩＡ		2	
刑事法特論ＩＢ		2	
刑事法特論ⅡＡ		2	
刑事法特論ⅡＢ		2	
刑事手続法特論Ａ		2	
刑事手続法特論Ｂ		2	
社会保障法特論Ａ		2	
社会保障法特論Ｂ		2	
産業保健法特論Ａ		2	
産業保健法特論Ｂ		2	
国際私法特論Ａ		2	
国際私法特論Ｂ		2	
英米法特論Ａ		2	
英米法特論Ｂ		2	
政治学特論Ａ		2	
政治学特論Ｂ		2	
国際政治学特論Ａ		2	
国際政治学特論Ｂ		2	
行政学特論Ａ		2	
行政学特論Ｂ		2	
公共政策特論Ａ		2	
公共政策特論Ｂ		2	
政治史特論Ａ			
政治史特論Ｂ			
外国法文化特論（英語）Ａ			2
外国法文化特論（英語）Ｂ			2
外国法文化特論（独語）Ａ			2
外国法文化特論（独語）Ｂ			2
外国文献研究（アメリカ法）			2
外国文献研究（イギリス法）			2
外国文献研究（ドイツ法）			2
外国文献研究（フランス法）			2
法人税法研究			2
所得税法研究			2
相続税法研究			2
消費税法研究			2
不動産登記法研究			2
商業登記法研究			2
特別講義Ⅰ			2
特別講義Ⅱ			2
特別講義Ⅲ			2
特別講義Ⅳ			2
公法の基礎			2
民事法の基礎			2
刑事法の基礎			2

研究倫理	1		
リーガル・リサーチ			1
法解釈学方法論			2
法史学方法論			2
比較法学方法論			2
法学・政治学の哲学的基礎			2
政治学方法論			2
演習Ａ	2		
演習Ｂ	2		

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修の授業科目の中から選定した１科目につき講義Ａ・Ｂの４単位と演習Ａ・Ｂの４単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）、研究倫理１単位を必修とし、さらに専修科目以外の授業科目の中から講義23単位以上、合計32単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員が必要と認めたとき、学生は所定の単位数以外にその指示する授業科目（講義）をも履修しなければならない。

３　指導教員がとくに必要と認めたとき、本学大学院他研究科・専攻の授業科目（講義）を８単位まで履修させることができ、その修得単位は、４単位を限度として第１項に定める専修科目以外の授業科目の単位数に充当することができる。

法律学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
民法特殊研究ＩＡ		2	
民法特殊研究ＩＢ		2	
民法特殊研究ⅡＡ		2	
民法特殊研究ⅡＢ		2	
民法特殊研究ⅢＡ		2	
民法特殊研究ⅢＢ		2	
民法特殊研究ⅣＡ		2	
民法特殊研究ⅣＢ		2	
商法特殊研究ＩＡ		2	
商法特殊研究ＩＢ		2	
商法特殊研究ⅡＡ		2	
商法特殊研究ⅡＢ		2	
商法特殊研究ⅢＡ		2	
商法特殊研究ⅢＢ		2	
知的財産法特殊研究Ａ		2	
知的財産法特殊研究Ｂ		2	
民事訴訟法特殊研究Ａ		2	
民事訴訟法特殊研究Ｂ		2	
憲法特殊研究ＩＡ		2	
憲法特殊研究ＩＢ		2	
憲法特殊研究ⅡＡ		2	
憲法特殊研究ⅡＢ		2	
行政法特殊研究Ａ		2	
行政法特殊研究Ｂ		2	
租税法特殊研究Ａ		2	

租税法特殊研究Ｂ		2	
刑事法特殊研究ＩＡ		2	
刑事法特殊研究ＩＢ		2	
刑事法特殊研究ⅡＡ		2	
刑事法特殊研究ⅡＢ		2	
刑事手続法特殊研究Ａ		2	
刑事手続法特殊研究Ｂ		2	
社会保障法特殊研究Ａ		2	
社会保障法特殊研究Ｂ		2	
産業保健法特殊研究Ａ		2	
産業保健法特殊研究Ｂ		2	
国際私法特殊研究Ａ		2	
国際私法特殊研究Ｂ		2	
英米法特殊研究Ａ		2	
英米法特殊研究Ｂ		2	
政治学特殊研究Ａ		2	
政治学特殊研究Ｂ		2	
行政学特殊研究Ａ		2	
行政学特殊研究Ｂ		2	
公共政策特殊研究Ａ		2	
公共政策特殊研究Ｂ		2	
研究倫理	1		
リーガル・リサーチ			1
法解釈学方法論			2
法史学方法論			2
比較法学方法論			2
政治学方法論			2
特別講義Ⅰ			2
特別講義Ⅱ			2
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2
演習ＩＡ	2		
演習ＩＢ	2		
演習ⅡＡ	2		
演習ⅡＢ	2		
演習ⅢＡ	2		
演習ⅢＢ	2		

＜履修方法＞

１　３年以上在学し、選択必修の授業科目の中から選定した１科目につき講義Ａ・Ｂの４単位と演習ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ・ⅢＡ・ⅢＢの12単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）、研究倫理１単位を必修とし、さらに専修科目以外の授業科目の中から講義３単位以上、合計20単位以上を修得し、指導教員による研究指導を受けなければならない。

２　指導教員が必要と認めたとき、所定の単位数以外にその指示する授業科目（講義）をも履修しなければならない。

商学研究科
商学専攻　博士前期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
商学関係			
外国為替特論		2	
観光特論			2
交通特論		2	
小売業態特論		2	
国際観光事業特論		2	
サービスマネジメント特論		2	
消費者行動特論		2	
ブランド特論		2	
保険特論		2	
貿易特論		2	
流通システム特論		2	
旅行産業特論		2	
ロジスティクス特論		2	
リレーションシップ・マーケティング特論		2	
経営学関係			
企業経済特論		2	
企業行動特論		2	
経営科学特論		2	
経営戦略特論		2	
経営組織特論		2	
コーポレート・ガバナンス特論		2	
財務管理特論		2	
産業組織特論		2	
実証経済特論		2	
人的資源管理特論		2	
地域経営特論		2	
中小企業経営特論		2	
日本経営史特論		2	
会計学関係			
会計監査特論		2	
管理会計特論		2	
原価計算特論		2	
国際会計特論		2	
財務諸表特論			2
簿記特論		2	
企業法特論		2	
ＩＴビジネス関係			
ＩＴ経営特論			2
経営情報特論		2	
行動情報特論		2	
情報倫理特論		2	

キャリア・マネジメント学関係			
キャリア開発特論		2	
コミュニケーション特論		2	
チームビルディング特論		2	
ビジネス倫理特論		2	
ベンチャービジネス特論		2	
スポーツマネジメント関係			
運動行動・健康プロモーション特論		2	
外国文献研究			
外国文献研究			2
演習			
演習Ⅰ	2		
演習Ⅱ	2		
演習Ⅲ	2		
演習Ⅳ	2		

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修の授業科目の中から選定した１科目講義２単位と演習８単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）、さらに専修科目以外の授業科目の中より講義20単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員と協議のうえ副指導教員を選定し、その副指導教員を加えた複数指導教員による研究指導を受けなければならない。さらに指導教員・副指導教員がとくに必要と認めたとき、所定の単位数以外にその指示する授業科目（講義）も履修しなければならない。

３　指導教員がとくに必要と認めたとき、本学大学院他研究科・専攻において修得させた授業科目（講義）の単位は、４単位を限度として所定の単位数に充当することができる。ただし、経済学研究科在籍中に、商学研究科の開設する科目の単位取得をした場合、商学研究科に入学後、同一担当者の同一科目を受講し単位が認定されても、商学研究科の所定の単位数に充当することができない。

商学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
商学関係			
外国為替特殊研究		4	
観光特殊研究			4
交通特殊研究		4	
消費者行動特殊研究		4	
ブランド特殊研究		4	
保険特殊研究		4	
貿易特殊研究		4	
流通システム特殊研究		4	
旅行産業特殊研究		4	
ロジスティクス特殊研究		4	
経営学関係			
企業経済特殊研究		4	
企業行動特殊研究		4	
経営科学特殊研究		4	
経営史特殊研究		4	
経営戦略特殊研究		4	
財務管理特殊研究		4	

産業組織特殊研究		4	
人的資源管理特殊研究		4	
中小企業経営特殊研究		4	
会計学関係			
管理会計特殊研究		4	
原価計算特殊研究		4	
財務諸表特殊研究			4
簿記特殊研究		4	
ＩＴビジネス関係			
経営情報特殊研究		4	
行動情報特殊研究		4	
キャリア・マネジメント学関係			
ベンチャービジネス特殊研究		4	
キャリア開発特殊研究		4	
スポーツマネジメント関係			
運動行動・健康プロモーション特殊研究		4	
実学関連関係			
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
大学の授業設計と実践方法			2
博士リテラシー			2
演習			
演習	12		

＜履修方法＞

１　３年以上在学し、選択必修の授業科目の中から選定した１科目講義４単位と演習12単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）を必修とし、合計16単位以上を修得し、指導教員による研究指導を受けなければならない。

２　指導教員と協議のうえ副指導教員を選定し、その副指導教員を加えた複数指導教員による研究指導を受けなければならない。さらに、指導教員・副指導教員が必要と認めたとき、所定の単位数以外にその指示する授業科目（講義）をも履修しなければならない。

経済学研究科

経済学専攻　博士前期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
理論経済学特論			2
経済学史特論		2	
ミクロ経済学特論		2	
マクロ経済学特論		2	
金融論特論			2
経済統計学特論			2
計量経済学特論		2	
応用計量経済学特論		2	
行動経済学特論		2	
経営情報システム論特論		2	
経営学特論		2	
経済地理学特論		2	

ゲーム理論特論		2	
実験経済学特論		2	
経済心理学特論			2
空間経済学特論		2	
公共経済学特論		2	
経済政策論特論		2	
財政学特論		2	
地方財政学特論		2	
地域経済学特論		2	
環境経済学特論		2	
社会調査特論		2	
産業組織論特論		2	
交通経済論特論		2	
社会保障論特論		2	
金融市場論特論		2	
都市政策論特論			2
国際経済学特論		2	
開発経済学特論		2	
国際金融論特論		2	
アメリカ経済論特論		2	
アジア経済史特論		2	
中国経済論特論		2	
日本経済史特論		2	
西洋経済史特論		2	
ヨーロッパ経済論特論		2	
統計学特論		2	
行政法特論		2	
特殊講義Ⅰ			2
特殊講義Ⅱ			2
特殊講義Ⅲ			2
外国文　英書文献研究		2	
献研究　独書文献研究		2	
仏書文献研究		2	
演習	8		

＜履修方法＞

昼間コース

1　２年以上在学し、指導教員が担当する授業科目（２単位）及び演習（８単位）を必修とし、共通科目４単位以上､分野科目10単位以上を含み､合計30単位以上を修得しなければならない。

2　夜間主コース開講の授業科目を履修し、８科目16単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

3　指導教員がとくに必要と認め、本学大学院他研究科・専攻において修得させた授業科目（講義）の単位は、４単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

ただし、他研究科・専攻において履修し、所定の単位数に充当される４単位は、夜間主コースの授業科目を履修し、所定単位数に充当できる限度８科目16単位の一部に含まれる。

また､本学大学院商学研究科在籍中に経済学研究科の開設する学科目の単位を修得した場合、経済学研究科に入学後、同一担当者の同一学科目を受講し、単位が認定されても、経済学研究科所定の単位数に充当することができない。

夜間主コース

1　２年以上在学し、夜間主コース開講の、指導教員が担当する授業科目（２単位）及び演習（８単位）を必修とし、共通科目４単位以上、分野科目10単位以上を含み、合計30単位以上を修得しなければならない。

2　昼間コース開講の授業科目を履修し、８科目16単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

3　指導教員がとくに必要と認め、本学大学院他研究科・専攻において修得させた授業科目（講義）の単位は４単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

ただし、他研究科・専攻において履修し、所定の単位数に充当される４単位は、昼間コースの授業科目を履修し、所定単位数に充当できる限度８科目16単位の一部に含まれる。

また､本学大学院商学研究科在籍中に経済学研究科の開講する学科目の単位を修得した場合、経済学研究科夜間主コースに入学後、同一担当者の同一科目を受講し、単位が認められても経済学研究科所定の単位数に充当することができない。

経済学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
理論経済学特殊研究			4
経済学史特殊研究		4	
ミクロ経済学特殊研究		4	
マクロ経済学特殊研究		4	
金融論特殊研究			4
計量経済学特殊研究			4
応用計量経済学特殊研究			4
行動経済学特殊研究			4
経営学特殊研究		4	
経営情報システム論特殊研究		4	
ゲーム理論特殊研究		4	
実験経済学特殊研究		4	
経済地理学特殊研究		4	
経済心理学特殊研究			4
空間経済学特殊研究			4
公共経済学特殊研究		4	
経済政策論特殊研究			4
財政学特殊研究			4
地方財政学特殊研究		4	
地域経済学特殊研究		4	
環境経済学特殊研究			4
社会調査特殊研究		4	
産業組織論特殊研究			4
交通経済論特殊研究			4
金融市場論特殊研究		4	
都市政策論特殊研究			4
開発経済学特殊研究			4
国際金融論特殊研究		4	
アメリカ経済論特殊研究			4
中国経済論特殊研究			4

日本経済史特殊研究			4
西洋経済史特殊研究		4	
社会保障論特殊研究		4	
ヨーロッパ経済論特殊研究		4	
統計学特殊研究			4
行政法特殊研究			4
特殊研究講義Ⅰ			4
特殊研究講義Ⅱ			4
ジョブ型研究インターンシップ			2
大学の授業設計と実践方法			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2
演習	12		

＜履修方法＞

1　３年以上在学し、選択必修の授業科目の中から選定した１科目講義４単位と演習12単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）を必修とし、さらに専修科目以外の授業科目の中から講義４単位以上、合計20単位以上を修得し、指導教員による研究指導を受けなければならない。

2　指導教員が必要と認めたとき、所定の単位数以外にその指示する授業科目（講義）をも履修しなければならない。

総合理工学研究科

理学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
数理解析	位相幾何特論		2	
	微分位相幾何特論			2
	多様体特論		2	
	３次元多様体特論			2
	群論特論		2	
	圏論的表現論特論			2
	応用代数学特論		2	
	応用数論特論			2
	超局所解析特論		2	
	応用代数解析特論			2
	離散数理特論		2	
	組合せ数学特論			2
	計算代数解析特論		2	
	多変数留数解析特論			2
	特殊関数特論		2	
	関数方程式特論			2
	数論特論		2	
	ゼータ関数特論			2
	結び目理論特論		2	
	低次元トポロジー特論			2
	整数論特論		2	

	保型形式特論			2
特別研究	数理解析特別研究	12		
物理学	素粒子実験学特論		2	
	高エネルギー実験物理学特論			2
	宇宙論特論		2	
	観測的宇宙論特論			2
	構造生物物理学特論		2	
	X線構造解析特論			2
	量子統計力学特論		2	
	量子凝縮系物理学特論			2
	固体電子物理学特論		2	
	超伝導物理学特論			2
	分子機械物理学特論		2	
	生命動態計測特論			2
	凝縮系理論特論		2	
	量子相転移特論			2
	場の量子論特論		2	
	ゲージ理論特論			2
	素粒子現象論特論		2	
	高エネルギー理論物理学特論			2
	高エネルギー天体物理学特論		2	
	高エネルギー天体物理学実験特論			2
	基礎物理学講究		2	
特別研究	物理学特別研究	12		
機能性分子化学	構造物理化学特論		2	
	分子構造化学特論			2
	有機金属化学特論		2	
	無機機能化学特論			2
	生物物理化学特論		2	
	生体分子物理化学特論			2
	生体分子化学特論		2	
	生体反応化学特論			2
	無機構造化学特論		2	
	無機物性化学特論			2
	分光物性化学特論		2	
	分子分光学特論			2
	反応有機化学特論		2	
	反応設計学特論			2
	凝縮系物理化学特論		2	
	物性物理化学特論			2
	触媒有機化学特論		2	
	分子変換化学特論			2
	光機能性有機化学特論		2	
	光有機合成化学特論			2

	大気化学特論 環境分析化学特論		2	 2
	無機固体化学特論 無機物質化学特論		2	 2
特別研究	機能性分子化学特別研究	12		
生物・環境化学	タンパク質科学特論		2	
	病理学特論		2	
	分子神経生物学特論		2	
	環境微生物学特論		2	
	行動内分泌学特論		2	
	ゲノム情報神経学特論		2	
	免疫分子機能特論		2	
	環境生理学特論		2	
	分子機能解析特論		2	
	発生生物学特論		2	
	分子遺伝学特論		2	
	生物データ科学特論		2	
	遺伝医療特論		2	
	生体分子化学・環境化学総論		2	
	細胞生物学・医療科学総論		2	
特別研究	生物・環境化学特別研究	12		
生物・環境化学	人類遺伝学特論			2
	人類遺伝学演習			2
	遺伝医療と倫理			1
	臨床遺伝学Ⅰ			1
	臨床遺伝学Ⅱ			1
	遺伝サービス情報学			1
	カウンセリング特論			2
	臨床腫瘍学Ⅰ			2
	臨床腫瘍学Ⅱ			2
	遺伝カウンセリングⅠ			1
	遺伝カウンセリングⅡ			2
	医療特論			1
	遺伝カウンセリング演習 （合同カンファレンス）			4
	遺伝カウンセリング実習			6
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1
	学際研究			2
	課外セミナー			2
	特別講義			2
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目			2

	（センター科目）			

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらに生物・環境化学分野を専修科目とする学生は「生体分子化学・環境化学総論」又は「細胞生物学・医療科学総論」の２単位を含め、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から16単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、８単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

物質系工学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
分子プロセス工学	表面設計化学特論		2	
	生体機能物質化学特論		2	
	応用材料プロセス工学特論		2	
	物質変換工学特論		2	
	触媒材料化学特論		2	
	触媒反応工学特論		2	
複合物質工学	応用無機物質化学特論		2	
	応用複合物質化学特論		2	
	有機巨大物質化学特論		2	
	応用有機物質化学特論		2	
	物質機能化学特論		2	
材料創成工学	無機材料化学特論		2	
	応用有機構造化学特論		2	
	無機機能物質化学特論		2	
	固体材料化学特論		2	
	ナノ材料創生化学特論		2	
	セラミックス創成化学特論		2	
特別研究	物質系工学特別研究	12		
専門基礎科目	物質工学総論（物理化学分野）	2		
	物質工学総論（有機化学分野）	2		
	物質工学総論（無機化学分野）	2		
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1
	学際研究			2
	課外セミナー			2
	特別講義			2
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目（センター科目）			2

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらに専門基礎科目６単位、専修科目以外の

選択必修科目、選択科目の中から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、８単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

メカニックス系工学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
材料・プロセシング・材料強度学	固体力学特論		2	
	破壊力学特論		2	
	複合材料プロセス工学特論		2	
	信頼性工学特論		2	
	材料加工プロセス工学特論		2	
エネルギー・流れ	熱エネルギーシステム工学特論		2	
	流体工学特論		2	
	内燃機関工学特論		2	
	流体力学特論		2	
機力・制御	システム制御工学特論		2	
	精密機械工学特論		2	
	ロボット構成学特論		2	
	機械振動学特論		2	
設計・生産加工	創製加工学特論		2	
	機械機能設計特論		2	
	先端加工システム工学特論		2	
	ヒューマンマシンインタフェース特論		2	
特別研究	メカニックス系工学特別研究	12		
専門基礎科目	メカニックス系学際講義Ⅰ 材料・プロセシング・材料強度学分野		2	
	メカニックス系学際講義Ⅱ エネルギー・流れ分野		2	
	メカニックス系学際講義Ⅲ 機力・制御分野		2	
	メカニックス系学際講義Ⅳ 設計・生産加工分野		2	
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1
	学際研究			2
	課外セミナー			2
	特別講義			2
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目（センター科目）			2

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらにメカニックス系学際講義Ⅰ～Ⅳから６

単位、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、８単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

エレクトロニクス系工学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
計測・情報システム	応用光学特論		2	
	医療情報処理特論		2	
	大気電気学特論		2	
	集積システム設計特論		2	
	情報システム工学特論		2	
	機能性デバイス特論		2	
	フォトニクス工学特論		2	
	量子情報デバイス特論		2	
	光・音響工学特論		2	
	光情報通信特論		2	
材料・デバイス	レーザー工学特論		2	
	材料プロセス工学特論		2	
	CAE-AI特論		2	
	光半導体パッケージング特論		2	
	光情報材料特論		2	
	パワーエレクトロニクス特論		2	
特別研究	エレクトロニクス系工学特別研究	12		
専門基礎科目	計測・情報システム専門基礎		2	
	材料・デバイス専門基礎		2	
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1
	学際研究			2
	課外セミナー			2
	特別講義			2
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目（センター科目）			2

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位、及び専修科目が属する分野の専門基礎科目１科目講義２単位を必修とし、さらに選択必修科目、選択科目の中から14単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、８単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

環境系工学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数

		必修	選択必修	選択
地球・社会環境工学	水工学特論		2	
	環境流体力学特論			2
	環境生物科学特論		2	
	環境微生物学特論			2
	環境計測学特論		2	
	水文計測特論			2
	海岸・港湾工学特論		2	
	沿岸防災工学特論			2
都市・居住環境計画	景観論特論		2	
	景観工学特論			2
	福祉環境デザイン特論		2	
	地域交通特論			2
構造・材料・地盤工学	複合構造学特論		2	
	メインテナンス工学特論			2
	地盤材料学特論		2	
	地盤環境学特論			2
	環境材料学特論		2	
	材料物性工学特論			2
	材料力学特論		2	
	破壊力学特論			2
	地盤安全工学特論		2	
	地盤情報学特論			2
特別研究	環境系工学特別研究	12		
専門基礎科目	環境系工学専門基礎Ⅰ	2		
	環境系工学専門基礎Ⅱ	2		
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1
	学際研究			2
	課外セミナー			2
	特別講義			2
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目（センター科目）			2

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらに専門基礎科目４単位、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から12単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、８単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

エネルギー理工学専攻　修士課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択

次世代インフラエネルギー理工学	熱エネルギー変換工学特論		2	
	核反応エネルギー工学特論		2	
	エネルギー環境材料科学特論		2	
	プラズマ工学特論		2	
	放射線防護学特論		2	
	放射線安全工学特論		2	
	放射線工学特論		2	
	放射線応用学特論		2	
	放射線計測学特論		2	
	原子炉物理学特論		2	
	中性子工学特論			2
	再生可能エネルギー・環境工学特論		2	
エネルギーマテリアル理工学	原子核化学特論		2	
	光電子機能化学特論		2	
	有機材料化学特論		2	
	有機エレクトロニクス特論		2	
	量子物質工学特論		2	
ライフデバイスエネルギー理工学	高分子合成化学特論		2	
	生体計測工学特論		2	
	計算生体物質科学特論		2	
	細胞分子工学特論		2	
	メカノバイオロジー特論		2	
特別研究	エネルギー理工学特別研究	12		
専門基礎科目	エネルギー理工学総合演習1	1		
	エネルギー理工学総合演習2	1		
	次世代インフラエネルギー理工学総論		2	
	エネルギーマテリアル理工学総論		2	
	ライフデバイスエネルギー理工学総論		2	
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1
	学際研究			2
	課外セミナー			2
	特別講義			2
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目（センター科目）			2

＜履修方法＞

1　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）、特別研究12単位、専修科目が属する分野の専門基礎科目１科目講義２単位、並びに専門基礎科目２科目演習２単位を必修とし、さらに選択必修科目、選択科目の中から12単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

2　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、８単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

東大阪モノづくり専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数

		必修	選択必修	選択
専修	レーザープロセシング特論		2	
	機能性物質開発特論		2	
	精密生産工学特論		2	
	ナノテクノロジー特論		2	
	創製加工プロセス工学特論		2	
	ビーム応用工学特論		2	
	マテリアルテクトニクス特論		2	
	コンピュータ援用工学特論		2	
	エネルギー材料科学特論		2	
	光半導体パッケージング設計特論		2	
基礎	地場産業組織論Ⅰ			2
	地場産業組織論Ⅱ			2
	知的財産権			2
	総合技術監理Ⅰ			2
	総合技術監理Ⅱ			2
	産業倫理			2
	コミュニケーションスキル			2
	知的財産管理技法特論			2
	先端技術特論			2
国際	国際インターンシップ			2
特別	東大阪モノづくり特別研究	16		
	東大阪モノづくり特別演習	4		
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1
	実践科学技術英語演習Ⅲ			1
	実践科学技術英語演習Ⅳ			1
	学際研究			2
	課外セミナー			2
	大学コンソーシアム大阪単位互換科目（センター科目）			2

＜履修方法＞

1　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究16単位（この担当者をその学生の指導教員とする。）および特別演習４単位を必修し、さらに専修科目以外の授業科目の中より14単位以上、合計36単位以上を修得する。

2　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めた場合には、他の専攻、他の研究科又は、他の大学院及び大学コンソーシアム大阪（センター科目）から修得した授業科目の単位については、所定の単位数に充当することができる。

3　「基礎」の授業科目の中から６単位以上を修得しなければならない。

4　「共通」の授業科目の中から２単位以上を修得しなければならない。

総合理工学研究科

理学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
位相幾何特殊研究		8	

多様体特殊研究		8	
群論特殊研究		8	
応用代数学特殊研究		8	
超局所解析特殊研究		8	
離散数学特殊研究		8	
計算代数解析特殊研究		8	
特殊関数特殊研究		8	
素粒子実験学特殊研究		8	
宇宙論特殊研究		8	
構造生物物理学特別研究		8	
量子統計力学特殊研究		8	
固体電子物理学特殊研究		8	
分子機械物理学特殊研究		8	
凝縮系理論特殊研究		8	
場の量子論特殊研究		8	
素粒子現象論特殊研究		8	
高エネルギー天体物理学特殊研究		8	
有機金属化学特殊研究		8	
構造物理化学特殊研究		8	
生体分子化学特殊研究		8	
生物物理化学特殊研究		8	
光電子機能化学特殊研究		8	
無機構造化学特殊研究		8	
分光物性化学特殊研究		8	
病理学特殊研究		8	
タンパク質科学特殊研究		8	
分子神経生物学特殊研究		8	
大気環境微生物学特殊研究		8	
行動内分泌学特殊研究		8	
臨床遺伝学特殊研究		8	
免疫分子機能特殊研究		8	
数理解析演習			2
物理学演習			2
機能性分子化学演習			2
生物・環境化学演習			2
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2

＜履修方法＞

１　３年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した１科目８単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から２単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
表面設計化学特殊研究		8	
有機巨大物質化学特殊研究		8	
無機材料化学特殊研究		8	
応用有機物質化学特殊研究		8	
有機材料化学特殊研究		8	
高分子合成化学特殊研究		8	
応用無機物質化学特殊研究		8	
応用有機構造化学特殊研究		8	
生体機能物質化学特殊研究		8	
ナノ材料創生化学特殊研究		8	
無機機能物質化学特殊研究		8	
分子プロセス工学演習			2
複合物質工学演習			2
材料創成工学演習			2
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2

＜履修方法＞

1　３年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した１科目８単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から２単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

メカニックス系工学専攻　博士後期課程

分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
材料・プロセシング・材料強度学	固体力学特殊研究		8	
	破壊力学特殊研究		8	
	複合材料プロセス工学特殊研究		8	
エネルギー・流れ	再生可能エネルギー・環境特殊研究		8	
	熱工学特殊研究		8	
	熱エネルギーシステム工学特殊研究		8	
	流体工学特殊研究		8	
機力・制御	システム制御工学特殊研究		8	
	精密機械工学特殊研究		8	
設計・生産加工	創製加工学特殊研究		8	
	材料・プロセシング・材料強度学演習			2
	エネルギー・流れ演習			2
	機力・制御演習			2
	設計・生産加工演習			2
大学の授業設計と実践方法				2
ジョブ型研究インターンシップ				2
コミュニケーションスキル演習				1

実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2

＜履修方法＞

１　３年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した１科目８単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から２単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

エレクトロニクス系工学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
数理情報工学特殊研究		8	
レーザー工学特殊研究		8	
環境情報特殊研究		8	
応用光学特殊研究		8	
放射線防護学特殊研究		8	
医療情報処理特殊研究		8	
ネットワーク特殊研究		8	
原子核化学特殊研究		8	
大気電気学特殊研究		8	
集積システム設計特殊研究		8	
材料プロセス工学特殊研究		8	
情報システム工学特殊研究		8	
放射線工学特殊研究		8	
核反応エネルギー工学特殊研究		8	
医用画像情報処理特殊研究		8	
エネルギー環境材料科学特殊研究		8	
放射線応用学特殊研究		8	
機能性デバイス特殊研究		8	
計算知能特殊研究		8	
システムデザイン論特殊研究		8	
バーチャルインタラクション特殊研究		8	
情報セキュリティ特殊研究		8	
知的通信網特殊研究		8	
知的メディア情報処理特殊研究		8	
コンピュータビジョン特殊研究		8	
光半導体パッケージング特殊研究		8	
原子炉物理学特殊研究		8	
放射線計測学特殊研究		8	
フォトニクス工学特殊研究		8	
量子情報デバイス特殊研究		8	
パワーエレクトロニクス特殊研究		8	
CAE-AI工学特殊研究		8	
大規模情報処理システム特殊研究		8	
計測・情報システム演習			2
材料・デバイス演習			2
原子エネルギー演習			2

大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2

＜履修方法＞

1　3年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した1科目8単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から2単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

環境系工学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
環境システム特殊研究		8	
水工学特殊研究		8	
空間理論特殊研究		8	
建築コンクリート構造学特殊研究		8	
都市計画学特殊研究		8	
建築振動工学特殊研究		8	
景観論特殊研究		8	
複合構造学特殊研究		8	
耐風構造工学特殊研究		8	
居住福祉学特殊研究		8	
環境生物科学特殊研究		8	
地盤材料学特殊研究		8	
建設材料学特殊研究		8	
材料力学特殊研究		8	
建築環境工学特殊研究		8	
建築・都市再生デザイン特殊研究		8	
鋼構造特殊研究		8	
福祉環境・交通計画特殊研究		8	
海岸・港湾工学特殊研究		8	
建築・都市音環境特殊研究		8	
建築環境設備計画特殊研究		8	
地球・人間環境工学演習			2
都市・居住環境計画演習			2
構造工学演習			2
耐風・耐震工学演習			2
材料・地盤工学演習			2
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2

＜履修方法＞

1　3年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した1科目8単位（これをその学生の専修科

目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、演習科目の中から２単位以上を受講し、合計10単位以上を修得しなければならない。

東大阪モノづくり専攻　博士後期課程

分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
専修科目	レーザープロセシング特講		2	
	レーザープロセシング特殊研究		8	
	精密生産工学特講		2	
	精密生産工学特殊研究		8	
	ナノテクノロジー特講		2	
	ナノテクノロジー特殊研究		8	
	ビーム応用工学特講		2	
	ビーム応用工学特殊研究		8	
	創製加工プロセス特講		2	
	創製加工プロセス特殊研究		8	
	マテリアルテクトニクス特講		2	
	マテリアルテクトニクス特殊研究		8	
	光半導体パッケージング設計特講		2	
	光半導体パッケージング設計特殊研究		8	
	エネルギー材料科学特講		2	
	エネルギー材料科学特殊研究		8	
演習科目	東大阪モノづくり演習（マテリアルズ）		4	
	東大阪モノづくり演習（計測・制御）		4	
	東大阪モノづくり演習（メカトロニクス）		4	
	博士学際研究			2
大学の授業設計と実践方法				2
ジョブ型研究インターンシップ				2
コミュニケーションスキル演習				1
実学コラボレーション演習				2
博士リテラシー				2

＜履修方法＞

１　３年以上在学し、専修科目（特講）の中から選定した１科目と専修科目（特殊研究）の中から選定した１科目（これをその学生の専修科目とする）の指導教員による研究指導を受け、さらに選択必修科目（演習）の中より２科目８単位以上を受講し、合計20単位以上を修得しなければならない。

建築学研究科

建築工学専攻　修士課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
環境・材料工学	建築環境システム特論		2	
	建築熱力学特論			2
	建築環境工学特論		2	
	数値流体力学特論			2

	建築環境設備計画特論		2	
	環境設計特論			2
	建築音響特論		2	
	音環境計画特論			2
都市・建築計画学	都市計画学特論		2	
	地域計画学特論			2
	建築・都市再生特論		2	
	建築再生デザイン特論			2
	居住福祉学特論		2	
	環境行動学特論			2
	都市住宅学特論		2	
	都市居住マネジメント特論			2
	都市・建築史特論		2	
	メタ建築史特論			2
建築構造工学	建築コンクリート構造学特論		2	
	材料特論			2
	鋼構造特論		2	
	耐震構造学特論			2
	建築振動工学特論		2	
	振動解析工学特論			2
	耐風構造工学特論		2	
	風環境工学特論			2
	木質構造設計学特論		2	
	建築構造デザイン特論			2
	建築振動制御学特論		2	
	建築構造解析特論			2
建築デザイン学	建築・都市デザイン演習			2
	建築空間演習			2
	建築デザイン演習			2
	建築・都市コモンズ演習			2
	建築プロジェクトデザイン演習			2
	建築・まちづくり設計演習			2
特別研究	建築工学特別研究	12		
建築実務演習(インターンシップ科目)	インターンシップⅠ			4
	インターンシップⅡ			4
	建築実務演習Ⅰ			4
	建築実務演習Ⅱ			4
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1

＜履修方法＞

1　２年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した１科目講義２単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらに専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から16単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

2　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認められた場合には、他の研究科、専攻から修得した授業科目の単位については、８単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

建築デザイン専攻　修士課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
建築デザイン学	建築デザイン特論		2	
	建築・都市デザイン演習			2
	建築空間設計特論		2	
	建築空間演習			2
	建築設計特論		2	
	建築デザイン演習			2
	建築・都市コモンズ特論		2	
	建築・都市コモンズ演習			2
	建築プロジェクトデザイン特論		2	
	建築プロジェクトデザイン演習			2
	建築・まちづくり設計特論		2	
	建築・まちづくり設計演習			2
	ランドスケープデザイン特論		2	
	ランドスケープデザイン演習			2
都市・建築計画学	都市計画学特論			2
	地域計画学特論			2
	建築・都市再生特論			2
	建築再生デザイン特論			2
	居住福祉学特論			2
	環境行動学特論			2
	都市住宅学特論			2
	都市居住マネジメント特論			2
	都市・建築史特論			2
	メタ建築史特論			2
特別研究	建築デザイン特別研究	12		
建築実務演習(インターンシップ科目)	インターンシップⅠ			4
	インターンシップⅡ			4
	建築実務演習Ⅰ			4
	建築実務演習Ⅱ			4
共通	実践科学技術英語演習Ⅰ			1
	実践科学技術英語演習Ⅱ			1

＜履修方法＞

1　2年以上在学し、選択必修科目の授業科目の中から選択した1科目講義2単位（これをその学生の専修科目とする。）と特別研究12単位を必修とし、さらに専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から16単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

2　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認められた場合には、他の研究科、専攻から修得した授業科目の単位については、8単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

3　修士論文又は特定の課題についての研究成果を提出し、最終審査に合格しなければならない。

情報学研究科

情報学専攻　修士課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
基礎科目	知能システム概論		2	

	サイバーセキュリティ概論		2	
	実世界コンピューティング概論		2	
	社会情報学応用実習1		1	
	社会情報学応用実習2		1	
	情報技術英語1		1	
	情報技術英語2		1	
専門科目	数理情報工学特論		2	
	ネットワーク特論		2	
	環境情報特論		2	
	計算知能特論		2	
	システムデザイン論特論		2	
	情報セキュリティ特論		2	
	バーチャルインタラクション特論		2	
	コンピュータビジョン特論		2	
	知的通信網特論		2	
	知的メディア情報処理特論		2	
	ビジネスモデリング特論		2	
	並行計算理論特論		2	
	自然言語処理特論		2	
	知的教育情報システム特論		2	
	ソフトウェア工学特論		2	
	ディペンダブルコンピューティング特論		2	
	知能情報処理特論		2	
	脳計算科学特論		2	
	知能行動情報学特論		2	
	大規模情報処理システム特論		2	
	学習工学特論		2	
	サイバーセキュリティ特論		2	
	フィールド知能特論		2	
	バイオインフォマティクス		2	
	臨床腫瘍学1		2	
	臨床腫瘍学2		2	
	課外研究1		2	
	課外研究2		2	
特別研究	特別研究	12		

＜履修方法＞

２年以上在学して、基礎科目６単位以上、専門科目12単位以上、特別研究12単位の合計30単位以上取得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び試験に合格すること。

ここで、専門科目の中から選択した講義１科目２単位、特別研究 12 単位を必修科目とする。また、基礎科目の「知能システム概論」「サイバーセキュリティ概論」「実世界コンピューティング概論」から２科目４単位以上を修得すること。さらに、基礎科目の「社会情報学応用実習１」、「社会情報学応用実習２」、「情報技術英語１」、「情報技術英語２」のうち２科目２単位以上を修得すること。

薬学研究科

薬学専攻　博士課程

臨床薬学コース専修科目、副専修科目及び単位数

専門分野		授業科目	単位数		
			必修	選択必修	選択
専修科目	臨床医療薬学系（専修）	医薬品情報学特別実験研究		20	
		個別化薬物療法学特別実験研究		20	
		社会薬学特別実験研究		20	
		臨床処方解析学特別実験研究（臨床医療薬学系連携講座）		10	
		先端医療薬学特別実験研究（臨床医療薬学系連携講座）		10	
		先端病院薬学特別実験研究（臨床医療薬学系連携講座）		10	
		地域医療薬学特別実験研究（臨床医療薬学系連携講座）		10	
		先進薬物療法学特別実験研究（臨床医療薬学系連携講座）		10	
		循環器薬物療法学特別実験研究（臨床医療薬学系連携講座）		10	
専修及び副専修科目	臨床医療薬学系（専修・副専修※）	医薬品情報学特別実験研究		10	
		個別化薬物療法学特別実験研究		10	
		社会薬学特別実験研究		10	
	医療生物薬学系（副専修）	薬物治療学特別実験研究		10	
		薬物動態解析学特別実験研究		10	
		生化学特別実験研究		10	
		機能製剤設計学特別実験研究		10	
	医療化学系（副専修）	公衆衛生学特別実験研究		10	
		病態分子解析学特別実験研究		10	
		生命有機化学特別実験研究		10	
	生命薬科学系（副専修）	病態薬理学特別実験研究		10	
		化学療法学特別実験研究		10	
		薬品分析学特別実験研究		10	
	創薬科学系（副専修）	薬用資源学特別実験研究		10	
		天然活性物質学特別実験研究		10	
		創薬分子設計学特別実験研究		10	
		医薬品化学特別実験研究		10	
		分子細胞生物学特別実験研究		10	
臨床薬学コース	共通	臨床薬学系先進特論		2	
		医療生物薬学系先進特論		2	
		医療化学系先進特論		2	
		臨床薬剤情報解析学特論講義	2		
		臨床薬学先進実務研修・臨床研究	6		
		先進特別講義１		3	
		先進特別講義２		3	

		科学英語コミュニケーション先進演習			2
		大学の授業設計と実践方法			2
		ジョブ型研究インターンシップ			2
		コミュニケーションスキル演習			1
		実学コラボレーション演習			2
		博士リテラシー			2
副専修科目関連	共通	医療生物薬学系先進特論		2	
		医療化学系先進特論		2	
		生命薬科学系先進特論		2	
		創薬科学系先進特論		2	

※　臨床医療薬学系連携講座に属する場合に限る。

＜履修方法＞

臨床薬学コース

１　４年以上在学し､臨床医療薬学系の中から選定した１科目(これをその学生の専修科目とする｡)に対して指導教員による研究指導を受け、特別実験研究20単位、選定した専修科目が属する先進特論科目を必修とし、先進特論科目及び先進特別講義１、先進特別講義２の中から８単位以上、さらに臨床薬学先進実務研修・臨床研究６単位、臨床薬剤情報解析学特論講義２単位を修得し、合計36単位を修得しなければならない。ただし、薬学専攻の医療生物薬学系あるいは医療化学系及び薬科学専攻の特別実験研究科目から１科目を副専修科目として選択する場合は、専修科目又は副専修科目が属する先進特論科目を必修として先進特論科目から２単位以上を修得する。

臨床医療薬学系連携講座

１　４年以上在学し、臨床医療薬学系の臨床処方解析学特別実験研究又は先端医療薬学特別実験研究又は先端病院薬学特別実験研究又は地域医療薬学特別実験研究又は循環器薬物療法学特別実験研究又は先進薬物療法学特別実験研究(これをその学生の専修科目とする｡)と臨床医療薬学系、医療生物薬学系、医療化学系あるいは薬科学専攻の特別実験科目の中から選定した副専修科目となる１科目に対して指導教員による研究指導を受け、特別実験研究20単位と選定した専修科目、副専修科目のいずれかが属する先進特論科目及び臨床薬剤情報解析学特論講義、臨床薬学先進実務研修・臨床研究を必修とし、先進特論科目及び先進特別講義１、先進特別講義２、科学英語コミュニケーション先進演習の中から６単位以上、合計36単位以上を修得しなければならない。

医療生命薬学コース専修科目、副専修科目及び単位数

専門分野		授業科目	単位数		
			必修	選択必修	選択
臨床専修科目	臨床医療薬学系（臨床専修）	医薬品情報学特別実験研究		10	
		個別化薬物療法学特別実験研究		10	
		社会薬学特別実験研究		10	
専修科目	医療生物薬学系（専修）	薬物治療学特別実験研究		10	
		薬物動態解析学特別実験研究		10	
		生化学特別実験研究		10	
		機能製剤設計学特別実験研究		10	
	医療化学系（専修）	公衆衛生学特別実験研究		10	
		病態分子解析学特別実験研究		10	
		生命有機化学特別実験研究		10	
	生命薬科学系（専修）	病態薬理学特別実験研究		10	
		化学療法学特別実験研究		10	
		薬品分析学特別実験研究		10	
	創薬科	薬用資源学特別実験研究		10	

	学系（専修）	天然活性物質学特別実験研究		10	
		創薬分子設計学特別実験研究		10	
		医薬品化学特別実験研究		10	
		分子細胞生物学特別実験研究		10	
医療生命薬学コース	共通	臨床薬学系先進特論		2	
		医療生物薬学系先進特論		2	
		医療化学系先進特論		2	
		生命薬科学系先進特論		2	
		創薬科学系先進特論		2	
		医療生命薬学先進演習１	2		
		医療生命薬学先進演習２	2		
		医療生命薬学先進演習３	2		
		科学英語コミュニケーション先進演習	2		
		先進特別講義１		3	
		先進特別講義２		3	
		大学の授業設計と実践方法			2
		ジョブ型研究インターンシップ			2
		コミュニケーションスキル演習			1
		実学コラボレーション演習			2
		博士リテラシー			2

＜履修方法＞

医療生命薬学コース

１　４年以上在学し、臨床医療薬学系の中から選定した１科目及び医療生物薬学系、医療化学系あるいは薬科学専攻の特別実験科目の中から選定した１科目（これをその学生の臨床専修科目、専修科目とする。）に対して指導教員による研究指導を受け、特別実験研究20単位と選定した専修科目が属する先進特論科目を必修とし、先進特論科目及び先進特別講義１、先進特別講義２の中から８単位以上、さらに医療生命薬学先進演習１、医療生命薬学先進演習２、医療生命薬学先進演習３、科学英語コミュニケーション先進演習を修得し、合計36単位以上を修得しなければならない。ただし、薬科学専攻の特別実験研究を専修科目とした場合、その科目が属する薬科学専攻の先進特論科目から２単位以上修得する。

薬科学専攻　博士前期課程

創薬科学コース専修科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修	選択必修	選択
創薬分子設計学特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	
医薬品化学特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	
薬用資源学特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	
天然活性物質学特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	

薬品分析学特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	
分子細胞生物学特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	

（注）専修科目以外の選択必修科目の特論講義は選択となる。

生命薬科学コース専修科目及び単位数

授業科目		単位数		
		必修	選択必修	選択
機能性分子化学系特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	
分子生命薬科学系特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	
薬効薬物動態解析学系特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	
社会医療薬科学系特論	講義		2	
	演習		2	
	特別実験		16	

（注）専修科目以外の選択必修科目の特論講義は選択となる。

創薬科学コース・生命薬科学コース共通科目及び単位数

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
特別講義１			3
特別講義２			3
科学英語コミュニケーション演習１	1		
科学英語コミュニケーション演習２	1		

＜履修方法＞

１　２年以上在学し、選択必修の授業科目の中から選定した１科目の講義２単位、演習２単位及び特別実験16単位（これをその学生の専修科目とする。）と科学英語コミュニケーション演習１・２各１単位を必修とし、さらに専修科目以外の創薬科学、生命薬科学両コース授業科目（講義）あるいは特別講義の中から同一コース科目１つ以上を含む８単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。

２　指導教員が必要と認めたとき、学生は所定の単位以外に、指示された授業科目（講義）をも履修しなければならない。

薬科学専攻　博士後期課程

専修科目、副専修科目及び単位数

専門分野		授業科目	単位数		
			必修	選択必修	選択
専修科目	生命薬科学系（専修）	病態薬理学特別実験研究		18	
		化学療法学特別実験研究		18	
		薬品分析学特別実験研究		18	
	創薬科	薬用資源学特別実験研究		18	

	学系（専修）	天然活性物質学特別実験研究		18	
		創薬分子設計学特別実験研究		18	
		医薬品化学特別実験研究		18	
		分子細胞生物学特別実験研究		18	
専修及び副専修科目	生命薬科学系（専修）	病態薬理学特別実験研究		9	
		化学療法学特別実験研究		9	
		薬品分析学特別実験研究		9	
	創薬科学系（専修）	薬用資源学特別実験研究		9	
		天然活性物質学特別実験研究		9	
		創薬分子設計学特別実験研究		9	
		医薬品化学特別実験研究		9	
		分子細胞生物学特別実験研究		9	
	医療生物薬学系（副専修）	薬物治療学特別実験研究		9	
		薬物動態解析学特別実験研究		9	
		生化学特別実験研究		9	
		機能製剤設計学特別実験研究		9	
	医療化学系（副専修）	公衆衛生学特別実験研究		9	
		病態分子解析学特別実験研究		9	
		生命有機化学特別実験研究		9	
専修科目関連	共通	生命薬科学系先進特論		2	
		創薬科学系先進特論		2	
	共通	薬科学先進演習１	2		
		薬科学先進演習２	2		
		先進特別講義１		3	
		先進特別講義２		3	
		科学英語コミュニケーション先進演習		2	
		大学の授業設計と実践方法			2
		ジョブ型研究インターンシップ			2
		コミュニケーションスキル演習			1
		実学コラボレーション演習			2
		博士リテラシー			2
副専修科目関連	共通	医療生物薬学系先進特論		2	
		医療化学系先進特論		2	

＜履修方法＞

１　３年以上在学し、授業科目の中から選定した１科目（これをその学生の専修科目とする。）に対して指導教員による研究指導を受け、特別実験研究18単位、専修科目が属する先進特論を必修として先進特論科目から２単位以上修得する。ただし、薬学専攻の医療生物薬学系あるいは医療化学系の特別実験科目から１科目を副専修科目として選択することができる。この場合、専修科目又は副専修科目の属する先進特論を必修として先進特論科目から２単位以上修得する。

さらに、薬科学先進演習１、薬科学先進演習２を必修とし、先進特別講義１、先進特別講義２及び科学英語コミュニケーション先進演習から５単位以上、合計29単位以上を修得しなければならない。

総合文化研究科

日本文学専攻　修士課程

授業科目	単位数

	必修	選択必修	選択
【言語・文学コース】			
古典詩歌特論Ａ		2	
古典詩歌特論Ｂ		2	
古典散文特論１Ａ		2	
古典散文特論１Ｂ		2	
古典散文特論２Ａ			2
古典散文特論２Ｂ			2
近世文学特論Ａ		2	
近世文学特論Ｂ		2	
近現代文学特論１Ａ			2
近現代文学特論１Ｂ			2
近現代文学特論２Ａ		2	
近現代文学特論２Ｂ		2	
日本語学特論１Ａ		2	
日本語学特論１Ｂ		2	
日本語学特論２Ａ		2	
日本語学特論２Ｂ		2	
日本語研究Ａ			2
日本語研究Ｂ			2
日本文学研究基礎１Ａ			2
日本文学研究基礎１Ｂ			2
日本文学研究基礎２Ａ			2
日本文学研究基礎２Ｂ			2
【創作・批評コース】			
フィクション研究１Ａ			2
フィクション研究１Ｂ			2
フィクション研究２Ａ		2	
フィクション研究２Ｂ		2	
創作・批評特論１Ａ		2	
創作・批評特論１Ｂ		2	
創作・批評特論２Ａ		2	
創作・批評特論２Ｂ		2	
創作・批評特論３Ａ		2	
創作・批評特論３Ｂ		2	
翻訳文学特論Ａ			2
翻訳文学特論Ｂ			2
演習Ａ	2		
演習Ｂ	2		
【共通】			
学術基礎１Ａ			2
学術基礎１Ｂ			2
学術基礎２Ａ			2
学術基礎２Ｂ			2
日本芸能史特論Ａ			2
日本芸能史特論Ｂ			2

日本思想史特論Ａ			2
日本思想史特論Ｂ			2
日本文化史特論Ａ			2
日本文化史特論Ｂ			2
学術統計研究			2
国際交流特論Ａ			2
国際交流特論Ｂ			2
国際地域社会特論Ａ			2
国際地域社会特論Ｂ			2
地域社会基盤特論Ａ			2
地域社会基盤特論Ｂ			2
都市社会学特論Ａ			2
都市社会学特論Ｂ			2
地域福祉特論Ａ（福祉分野に関する理論と支援の展開）			2
地域福祉特論Ｂ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）			2

＜履修方法＞

1. 2年以上在学し、自専攻の選択必修科目の中から選定した２科目４単位と、演習４単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）を必修とし、さらに共通科目４単位以上及び専修科目を除く自専攻の授業科目から８単位以上を含む、合計30単位以上を修得しなければならない。
2. 他専攻又は本学大学院他研究科から修得した授業科目の単位については、10単位を限度として所定の単位数に充当することができる。なお、心理学専攻臨床心理学コースの科目は履修不可。

英語英米文学専攻　修士課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
ルネサンス文学特論Ａ		2	
ルネサンス文学特論Ｂ		2	
イギリス啓蒙主義時代特論Ａ		2	
イギリス啓蒙主義時代特論Ｂ		2	
イギリス近現代文学特論Ａ			2
イギリス近現代文学特論Ｂ			2
アメリカ近現代文学特論Ａ		2	
アメリカ近現代文学特論Ｂ		2	
英米文化特論Ａ		2	
英米文化特論Ｂ		2	
比較文学特論Ａ		2	
比較文学特論Ｂ		2	
英語圏文学特論Ａ		2	
英語圏文学特論Ｂ		2	
英語教育学特論Ａ		2	
英語教育学特論Ｂ		2	
応用言語学特論Ａ			2
応用言語学特論Ｂ			2
英米文学理論特論		2	
中世英文学特論		2	

演習Ａ	2		
演習Ｂ	2		
【共通】			
学術基礎１Ａ			2
学術基礎１Ｂ			2
学術基礎２Ａ			2
学術基礎２Ｂ			2
日本芸能史特論Ａ			2
日本芸能史特論Ｂ			2
日本思想史特論Ａ			2
日本思想史特論Ｂ			2
日本文化史特論Ａ			2
日本文化史特論Ｂ			2
学術統計研究			2
国際交流特論Ａ			2
国際交流特論Ｂ			2
国際地域社会特論Ａ			2
国際地域社会特論Ｂ			2
地域社会基盤特論Ａ			2
地域社会基盤特論Ｂ			2
都市社会学特論Ａ			2
都市社会学特論Ｂ			2
地域福祉特論Ａ（福祉分野に関する理論と支援の展開）			2
地域福祉特論Ｂ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）			2

＜履修方法＞

1. 2年以上在学し、自専攻の選択必修科目の中から選定した２科目４単位と、演習４単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）を必修とし、さらに共通科目４単位以上及び専修科目を除く自専攻の授業科目から８単位以上を含む、合計30単位以上を修得しなければならない。
2. 他専攻又は本学大学院他研究科から修得した授業科目の単位については、10単位を限度として所定の単位数に充当することができる。なお、心理学専攻臨床心理学コースの科目は履修不可。

文化・社会学専攻　修士課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
【歴史学コース】			
日本古代史特論Ａ		2	
日本古代史特論Ｂ		2	
日本中近世史特論Ａ		2	
日本中近世史特論Ｂ		2	
日本近現代史特論Ａ		2	
日本近現代史特論Ｂ		2	
考古学特論Ａ		2	
考古学特論Ｂ		2	
民俗学特論Ａ		2	
民俗学特論Ｂ		2	

西洋古代史特論Ａ			2
西洋古代史特論Ｂ			2
西洋近現代史特論Ａ		2	
西洋近現代史特論Ｂ		2	
エジプト学特論Ａ			2
エジプト学特論Ｂ			2
東洋文化特論Ａ		2	
東洋文化特論Ｂ		2	
人文地理学特論Ａ			2
人文地理学特論Ｂ			2
【現代文化学コース】			
哲学・倫理学研究Ａ		2	
哲学・倫理学研究Ｂ		2	
ジェンダー研究Ａ			2
ジェンダー研究Ｂ			2
メディア研究Ａ		2	
メディア研究Ｂ		2	
空間文化特論Ａ		2	
空間文化特論Ｂ		2	
身体文化特論Ａ		2	
身体文化特論Ｂ		2	
文化政策特論Ａ		2	
文化政策特論Ｂ		2	
【社会学コース】			
現代社会特論１Ａ		2	
現代社会特論１Ｂ		2	
現代社会特論２Ａ		2	
現代社会特論２Ｂ		2	
現代社会特論３Ａ		2	
現代社会特論３Ｂ		2	
現代社会特論４Ａ		2	
現代社会特論４Ｂ		2	
多文化社会特論１Ａ			2
多文化社会特論１Ｂ			2
理論社会学特論Ａ		2	
理論社会学特論Ｂ		2	
経験社会学特論１Ａ			2
経験社会学特論１Ｂ			2
経験社会学特論２Ａ			2
経験社会学特論２Ｂ			2
【都市学コース】			
都市学特論Ａ			2
都市学特論Ｂ			2
都市政策特論Ａ		2	
都市政策特論Ｂ		2	
地域政策特論Ａ		2	

地域政策特論Ｂ		2	
地域社会特論Ａ			2
地域社会特論Ｂ			2
地理情報学特論Ａ		2	
地理情報学特論Ｂ		2	
まちづくり特論Ａ		2	
まちづくり特論Ｂ		2	
環境情報科学Ａ		2	
環境情報科学Ｂ		2	
自然環境特論Ａ		2	
自然環境特論Ｂ		2	
地域経済学特論Ａ			2
地域経済学特論Ｂ			2
演習Ａ	2		
演習Ｂ	2		
【共通】			
学術基礎１Ａ			2
学術基礎１Ｂ			2
学術基礎２Ａ			2
学術基礎２Ｂ			2
日本芸能史特論Ａ			2
日本芸能史特論Ｂ			2
日本思想史特論Ａ			2
日本思想史特論Ｂ			2
日本文化史特論Ａ			2
日本文化史特論Ｂ			2
学術統計研究			2
国際交流特論Ａ			2
国際交流特論Ｂ			2
国際地域社会特論Ａ			2
国際地域社会特論Ｂ			2
地域社会基盤特論Ａ			2
地域社会基盤特論Ｂ			2
都市社会学特論Ａ			2
都市社会学特論Ｂ			2
地域福祉特論Ａ（福祉分野に関する理論と支援の展開）			2
地域福祉特論Ｂ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）			2

＜履修方法＞

1. 2年以上在学し、自コースの選択必修科目の中から選定した２科目４単位と、演習４単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）を必修とし、さらに共通科目４単位以上及び専修科目を除く自コースの授業科目から８単位以上を含む、合計30単位以上を修得しなければならない。
2. 他専攻・他コース又は本学大学院他研究科から修得した授業科目の単位については、10単位を限度として所定の単位数に充当することができる。なお、心理学専攻臨床心理学コースの科目は履修不可。

心理学専攻　修士課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
【心理学コース】			
心理学研究法特論Ａ		2	
心理学研究法特論Ｂ		2	
人間関係特論Ａ		2	
人間関係特論Ｂ		2	
基礎心理学特論			2
人格心理学特論			2
認知心理学特論			2
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）			2
医療心理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）			2
産業心理学特論			2
【臨床心理学コース】			
臨床研究法特論Ａ		2	
臨床研究法特論Ｂ		2	
臨床心理学特論Ａ			2
臨床心理学特論Ｂ			2
臨床心理面接特論Ａ（心理支援に関する理論と実践）			2
臨床心理面接特論Ｂ			2
臨床心理査定演習１（心理的アセスメントに関する理論と実践）			2
臨床心理査定演習２			2
臨床心理基礎実習１			1
臨床心理基礎実習２			1
臨床心理実習１			1
臨床心理実習２			1
教育分野に関する理論と支援の展開			2
心理療法特論			2
産業・労働分野に関する理論と支援の展開			2
心の健康教育に関する理論と実践			2
投影法特論			2
心理実践実習Ａ			5
心理実践実習Ｂ			5
演習Ａ	2		
演習Ｂ	2		
【共通】			
学術基礎１Ａ			2
学術基礎１Ｂ			2
学術基礎２Ａ			2
学術基礎２Ｂ			2
日本芸能史特論Ａ			2
日本芸能史特論Ｂ			2

日本思想史特論Ａ			2
日本思想史特論Ｂ			2
日本文化史特論Ａ			2
日本文化史特論Ｂ			2
学術統計研究			2
国際交流特論Ａ			2
国際交流特論Ｂ			2
国際地域社会特論Ａ			2
国際地域社会特論Ｂ			2
地域社会基盤特論Ａ			2
地域社会基盤特論Ｂ			2
都市社会学特論Ａ			2
都市社会学特論Ｂ			2
地域福祉特論Ａ（福祉分野に関する理論と支援の展開）			2
地域福祉特論Ｂ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）			2

＜履修方法＞

1. 2年以上在学し、自コースの選択必修科目の中から選定した２科目４単位と、演習４単位（これをその学生の専修科目とし、この担当者を指導教員とする。）を必修とし、さらに共通科目４単位以上及び専修科目を除く自コースの授業科目から８単位以上を含む、合計30単位以上修得しなければならない。
2. 他専攻又は本学大学院他研究科から修得した授業科目の単位については、10単位を限度として所定の単位数に充当することができる。なお、臨床心理学コース以外の学生は臨床心理学コースの科目は履修不可。

農学研究科

農業生産科学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
作物学	作物学特論		2	
	作物形態生理学特論		2	
	作物学演習		4	
	作物学実験Ⅰ		6	
	作物学実験Ⅱ		6	
育種学	植物育種学特論		2	
	植物遺伝育種学特論		2	
	育種学演習		4	
	育種学実験Ⅰ		6	
	育種学実験Ⅱ		6	
園芸植物学	園芸植物生産学特論		2	
	園芸生育調節学特論		2	
	園芸植物学演習		4	
	園芸植物学実験Ⅰ		6	
	園芸植物学実験Ⅱ		6	
植物感染制御工学	植物感染機構学特論		2	
	植物感染制御工学演習		4	

	植物感染制御工学実験Ⅰ		6	
	植物感染制御工学実験Ⅱ		6	
昆虫学	送粉生態学特論		2	
	生物間相互作用特論		2	
	昆虫学演習		4	
	昆虫学実験Ⅰ		6	
	昆虫学実験Ⅱ		6	
農業経営経済学	農業経営経済学特論		2	
	アグリビジネス特論		2	
	農業経営経済学演習		4	
	農業経営経済学実習調査Ⅰ		6	
	農業経営経済学実習調査Ⅱ		6	
花卉園芸学	花卉園芸学特論		2	
	花卉園芸学演習		4	
	花卉園芸学実験Ⅰ		6	
	花卉園芸学実験Ⅱ		6	
特別講義Ⅰ			2	
特別講義Ⅱ			2	
特別講義Ⅲ			2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	

水産学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
水産増殖学	海水増殖学特論		2	
	淡水増殖学特論		2	
	種苗生産学特論		2	
	水産増養殖システム特論		2	
	水産増殖技術特論		2	
	水産増殖学演習		2	
	水産繁殖学演習		2	
	種苗生産学演習		2	
	水産増殖学実験		6	
	水産繁殖学実験		6	
	種苗生産学実験		6	
水産生物学	水産生物学特論		2	
	魚類育種学特論		2	
	魚類生態学特論		2	
	海棲哺乳類学特論		2	
	水産遺伝学特論		2	
	水産生物学演習		2	
	魚類生態学演習		4	
	海棲哺乳類学演習		4	
	魚類発生生物学演習		2	

	水産遺伝学演習		2	
	水産生物学実験		6	
	水族育種学実験		6	
	海棲哺乳類学実験		6	
漁業生産システム	漁業生産システム特論		2	
	漁業生産工学特論		2	
	漁業生産システム演習		4	
	漁業生産システム実験Ⅰ		6	
	漁業生産システム実験Ⅱ		6	
水族環境学	水族環境学特論		2	
	水圏微生物学特論		2	
	微生物海洋学特論		2	
	水族環境学演習		4	
	水族環境学実験Ⅰ		6	
	水族環境学実験Ⅱ		6	
水産利用学	水産利用学特論		2	
	水産生物化学特論		2	
	水産食品化学特論		2	
	水産利用学演習		2	
	水産化学演習		2	
	水産利用学実験		6	
	水産化学実験		6	
水産科学演習Ⅰ			1	
水産科学演習Ⅱ			1	
特別講義Ⅰ			2	
特別講義Ⅱ			2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	

応用生命化学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
応用微生物学	応用微生物学特論		2	
	分子微生物学特論		2	
	応用微生物学演習		4	
	応用微生物学実験Ⅰ		6	
	応用微生物学実験Ⅱ		6	
食品微生物工学	食品微生物工学特論		2	
	食品微生物機能学特論		2	
	食品微生物工学演習		4	
	食品微生物工学実験Ⅰ		6	
	食品微生物工学実験Ⅱ		6	
応用細胞生物学	応用細胞生物学特論		2	
	細胞機能制御学特論		2	
	応用細胞生物学演習		4	

	応用細胞生物学実験Ⅰ		6	
	応用細胞生物学実験Ⅱ		6	
生物制御化学	生物制御化学特論		2	
	農薬化学特論		2	
	生物制御化学演習		4	
	生物制御化学実験Ⅰ		6	
	生物制御化学実験Ⅱ		6	
生命資源化学	生命資源化学特論		2	
	生物環境調節物質動態学特論		2	
	生命資源化学演習		4	
	生命資源化学実験Ⅰ		6	
	生命資源化学実験Ⅱ		6	
森林生物化学	森林生物化学特論		2	
	森林資源科学特論		2	
	森林生物化学演習		4	
	森林生物化学実験Ⅰ		6	
	森林生物化学実験Ⅱ		6	
食品機能学	食品機能学特論		2	
	食品機能評価学特論		2	
	食品機能学演習		4	
	食品機能学実験Ⅰ		6	
	食品機能学実験Ⅱ		6	
特別講義Ⅰ			2	
特別講義Ⅱ			2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	

環境管理学専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
水圏生態学	希少生物保護特論		2	
	保全遺伝学特論		2	
	河川生態学特論		2	
	魚類学特論		2	
	水圏生態学演習		4	
	水圏生態学実験Ⅰ		6	
	水圏生態学実験Ⅱ		6	
生態系管理学	森林保護学特論		2	
	生態リスク学特論		2	
	生態系管理学演習		4	
	生態系管理学実験Ⅰ		6	
	生態系管理学実験Ⅱ		6	
環境化学	環境化学特論		2	
	環境微生物学特論		2	
	環境化学演習		4	

	環境化学実験Ⅰ		6	
	環境化学実験Ⅱ		6	
自然資源管理学	緑化学特論		2	
	水環境工学特論		2	
	開発環境学特論		2	
	環境空間情報学特論		2	
	森林管理学特論		2	
	森林計測学特論		2	
	自然資源管理学演習		4	
	自然資源管理学実験Ⅰ		6	
	自然資源管理学実験Ⅱ		6	
環境政策学	環境政策学特論		2	
	環境政策学演習		4	
	環境政策学実験・調査Ⅰ		6	
	環境政策学実験・調査Ⅱ		6	
特別講義Ⅰ			2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	

バイオサイエンス専攻　博士前期課程

専攻分野	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
生体機能科学	植物分子生理学特論		2	
	植物分子遺伝学特論		2	
	動物発生工学特論		2	
	動物分子遺伝学特論		2	
	植物分子生理学演習		4	
	植物分子生理学実験Ⅰ		6	
	植物分子生理学実験Ⅱ		6	
	植物分子遺伝学演習		4	
	植物分子遺伝学実験Ⅰ		6	
	植物分子遺伝学実験Ⅱ		6	
	動物発生工学演習		4	
	動物発生工学実験Ⅰ		6	
	動物発生工学実験Ⅱ		6	
	動物分子遺伝学演習		4	
	動物分子遺伝学実験Ⅰ		6	
	動物分子遺伝学実験Ⅱ		6	
分子機能化学	生体分子化学特論		2	
	分子生物学特論		2	
	生物有機化学特論		2	
	生体分子化学演習		4	
	生体分子化学実験Ⅰ		6	
	生体分子化学実験Ⅱ		6	

	分子生物学演習		4	
	分子生物学実験Ⅰ		6	
	分子生物学実験Ⅱ		6	
	生物有機化学演習		4	
	生物有機化学実験Ⅰ		6	
	生物有機化学実験Ⅱ		6	
バイオサイエンス演習		2		
バイオサイエンス特論Ⅰ			2	
バイオサイエンス特論Ⅱ			2	
特別講義Ⅰ			2	
特別講義Ⅱ			2	
特別講義Ⅲ			2	
特別講義Ⅳ			2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ			2	

＜履修方法＞

1　２年以上在学し、専攻分野の中から選定した１分野の授業科目、講義２単位以上、演習４単位、及び実験12単位又は調査12単位（これをその学生の専修科目とする。）を必修し、専修科目以外の科目とをあわせて講義14単位以上、演習４単位、実験又は調査の中から12単位、合計30単位以上修得しなければならない。なお、指導教員は専修科目の講義担当教員から選ぶものとする。

2　指導教員が該当学生の研究上特に必要と認めたとき、本研究科の他の専攻及び他研究科から修得させた授業科目（講義）の単位は、６単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

農業生産科学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
作物学特論		2	
作物形態生理学特論		2	
植物育種学特論		2	
植物遺伝育種学特論		2	
園芸植物生産学特論		2	
園芸生育調節学特論		2	
植物感染機構学特論		2	
送粉生態学特論		2	
生物間相互作用特論		2	
農業経営経済学特論		2	
アグリビジネス特論		2	
花卉園芸学特論		2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2

博士リテラシー			2
作物学特別演習		6	
育種学特別演習		6	
園芸植物学特別演習		6	
植物感染制御工学特別演習		6	
昆虫学特別演習		6	
農業経営経済学特別演習		6	
花卉園芸学特別演習		6	
作物学特別実験研究		12	
育種学特別実験研究		12	
園芸植物学特別実験研究		12	
植物感染制御工学特別実験研究		12	
昆虫学特別実験研究		12	
農業経営経済学特別調査研究		12	
花卉園芸学特別実験研究		12	

水産学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
海水増殖学特論		2	
淡水増殖学特論		2	
種苗生産学特論		2	
水産増養殖システム特論		2	
水産増殖技術特論		2	
水産生物学特論		2	
魚類育種学特論		2	
魚類生態学特論		2	
海棲哺乳類学特論		2	
漁業生産システム特論		2	
漁業生産工学特論		2	
水族環境学特論		2	
水圏微生物学特論		2	
微生物海洋学特論		2	
水産利用学特論		2	
水産生物化学特論		2	
水産食品化学特論		2	
水産科学特別演習Ⅰ		1	
水産科学特別演習Ⅱ		1	
水産科学特別演習Ⅲ		1	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2

水産増殖学特別演習		6	
水産生物学特別演習		6	
漁業生産システム特別演習		6	
水族環境学特別演習		6	
水産利用学特別演習		6	
水産増殖学特別実験研究		12	
水産生物学特別実験研究		12	
漁業生産システム特別実験研究		12	
水族環境学特別実験研究		12	
水産利用学特別実験研究		12	

応用生命化学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
応用微生物学特論		2	
分子微生物学特論		2	
食品微生物工学特論		2	
食品微生物機能学特論		2	
応用細胞生物学特論		2	
細胞機能制御学特論		2	
生物制御化学特論		2	
農薬化学特論		2	
生命資源化学特論		2	
生物環境調節物質動態学特論		2	
森林生物化学特論		2	
森林資源科学特論		2	
食品機能学特論		2	
食品機能評価学特論		2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2
応用微生物学特別演習		6	
食品微生物工学特別演習		6	
応用細胞生物学特別演習		6	
生物制御化学特別演習		6	
生命資源化学特別演習		6	
森林生物化学特別演習		6	
食品機能学特別演習		6	
応用微生物学特別実験研究		12	
食品微生物工学特別実験研究		12	
応用細胞生物学特別実験研究		12	
生物制御化学特別実験研究		12	

生命資源化学特別実験研究		12	
森林生物化学特別実験研究		12	
食品機能学特別実験研究		12	

環境管理学専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
希少生物保護特論		2	
保全遺伝学特論		2	
河川生態学特論		2	
魚類学特論		2	
森林保護学特論		2	
生態リスク学特論		2	
環境化学特論		2	
環境微生物学特論		2	
緑化学特論		2	
水環境工学特論		2	
開発環境学特論		2	
環境空間情報学特論		2	
森林管理学特論		2	
森林計測学特論		2	
環境政策学特論		2	
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｗｒｉｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2
水圏生態学特別演習		6	
生態系管理学特別演習		6	
環境化学特別演習		6	
自然資源管理学特別演習		6	
環境政策学特別演習		6	
水圏生態学特別実験研究		12	
生態系管理学特別実験研究		12	
環境化学特別実験研究		12	
自然資源管理学特別実験研究		12	
環境政策学特別実験・調査研究		12	

バイオサイエンス専攻　博士後期課程

授業科目	単位数		
	必修	選択必修	選択
バイオサイエンス特論Ⅰ		2	
バイオサイエンス特論Ⅱ		2	
植物分子生理学特論		2	
植物分子遺伝学特論		2	

動物発生工学特論		2	
動物分子遺伝学特論		2	
生体分子化学特論		2	
分子生物学特論		2	
生物有機化学特論		2	
バイオサイエンス特別演習	2		
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
大学の授業設計と実践方法			2
ジョブ型研究インターンシップ			2
コミュニケーションスキル演習			1
実学コラボレーション演習			2
博士リテラシー			2
植物分子生理学特別演習		6	
植物分子遺伝学特別演習		6	
動物発生工学特別演習		6	
動物分子遺伝学特別演習		6	
生体分子化学特別演習		6	
分子生物学特別演習		6	
生物有機化学特別演習		6	
植物分子生理学特別実験研究		12	
植物分子遺伝学特別実験研究		12	
動物発生工学特別実験研究		12	
動物分子遺伝学特別実験研究		12	
生体分子化学特別実験研究		12	
分子生物学特別実験研究		12	
生物有機化学特別実験研究		12	

＜履修方法＞

1　３年以上在学し、専攻の授業科目の中から選定した特別演習６単位と特別実験研究又は調査研究12単位（これらをその学生の専修科目とする。）の指導教員による研究指導を受け、さらに講義４単位以上、合計22単位以上を修得しなければならない。

2　博士前期課程ですでに単位を修得した特論科目については、博士後期課程でふたたび受講しても単位は認定されない。

生物理工学研究科

生物工学専攻　博士前期課程

科目区分	分野	授業科目	単位数		
			必修	選択必修	選択
専門科目	動物分子生命工学	遺伝子発現学特論（講義・演習）		4	
		進化発生学特論（講義・演習）		4	
		生体情報特論（講義・演習）		4	
		実験動物技術特論（講義・演習）		4	
		遺伝子情報解析学特論			2
	生殖再生生命工学	体外受精特論（講義・演習）		4	
		幹細胞工学特論（講義・演習）		4	
		エピジェネティクス特論（講義・演習）		4	

		分子遺伝学特論（講義・演習）		4	
	植物分子生命工学	細胞工学特論（講義・演習）		4	
		生物情報学特論（講義・演習）		4	
		植物分子育種学特論（講義・演習）		4	
		植物病理学特論（講義・演習）		4	
		環境分子生物学特論			2
		植物生理学特論（講義・演習）		4	
		植物遺伝子機能学特論（講義・演習）		4	
	生命環境工学	生物生産工学特論（講義・演習）		4	
		応用微生物遺伝学特論（講義・演習）		4	
		ウイルス工学特論（講義・演習）		4	
		腸内細菌制御学特論（講義・演習）		4	
	生体機能分子工学	生物機能物質特論（講義・演習）		4	
		酵素化学特論（講義・演習）		4	
		生体物理化学特論（講義・演習）		4	
		蛋白質工学特論（講義・演習）		4	
		プロテオミクス特論（講義・演習）		4	
		生体構成分子機能学特論（講義・演習）		4	
		植物化学生態学特論（講義・演習）		4	
	食品生命工学	食品科学特論（講義・演習）		4	
		食品免疫学特論（講義・演習）		4	
		食品衛生管理工学特論（講義・演習）		4	
		食品品質制御特論（講義・演習）		4	
		食品機能学特論（講義・演習）		4	
	特別研究	特別研究Ⅰ	6		
		特別研究Ⅱ	6		
共通科目		動物生命工学基礎	2		
		専門領域実践英語Ⅰ	2		
		インターフェース分野別専門家特別講義	2		
		専門領域実践英語Ⅱ			2
		知的財産及び生命倫理学特論			2
		国内企業インターンシップ			1
		特別講義Ⅰ			2
		特別講義Ⅱ			2

＜履修方法＞

1　２年以上在学し、選択必修の授業科目から選定した１科目４単位（これをその学生の専修科目とする。）および特別研究Ⅰ、Ⅱを含む必修の授業科目18単位に加えて、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から講義８単位以上（ただし、専修科目の属する分野以外の専門科目から講義２単位以上）、合計30単位以上を修得しなければならない。

2　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めて、他の専攻または他の研究科から修得させた授業科目（特別研究Ⅰ・Ⅱを除く）の単位は、４単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

生体システム工学専攻　博士前期課程

科目区	分野	授業科目	単位数

分			必修	選択必修	選択
専門科目	ナノ・機能材料工学	デバイスプロセス工学特論（講義・演習）		4	
		薄膜物性工学特論（講義・演習）		4	
		マイクロ・ナノシステム工学特論（講義・演習）		4	
		レーザー計測工学特論			2
	生体医工学	人工臓器学特論（講義・演習）		4	
		バイオメカニクス特論（講義・演習）		4	
		医用化学工学特論（講義・演習）		4	
		臨床工学特論			2
	情報通信工学	生体情報システム特論（講義・演習）		4	
		視覚情報処理特論（講義・演習）		4	
		生体分光計測特論（講義・演習）		4	
		複合生命情報解析特論（講義・演習）		4	
		画像解析特論			2
		ソフトコンピューティング特論			2
		非線形システム特論			2
	人間生活環境工学	福祉デザイン特論			2
		応用力学特論（講義・演習）		4	
		システムデザイン特論（講義・演習）		4	
		カラーサイエンス特論（講義・演習）		4	
		機械振動音響工学特論（講義・演習）		4	
		建築環境工学特論（講義・演習）		4	
		安全心理学特論（講義・演習）		4	
	先進計算科学	分子理論計算科学特論（講義・演習）		4	
		電磁波計算工学特論（講義・演習）		4	
		バイオスーパーコンピューティング特論（講義・演習）		4	
		シミュレーション工学特論			2
		計算機画像診断学特論（講義・演習）		4	
	特別研究	特別研究Ⅰ	6		
		特別研究Ⅱ	6		
共通科目		専門領域実践英語Ⅰ	2		
		インターフェース分野別専門家特別講義	2		
		専門領域実践英語Ⅱ			2
		国内企業インターンシップ			1
		生体システム工学基礎	2		
		知的財産及び技術者倫理特論			2

＜履修方法＞

1　2年以上在学し、選択必修の授業科目から選定した1科目4単位（これをその学生の専修科目とする。）および特別研究Ⅰ、Ⅱを含む必修の授業科目18単位に加えて、専修科目以外の選択必修科目、選択科目の中から講義8単位以上（ただし、専修科目の属する分野以外の専門科目から講義2単位以上）、合計30単位以上を修得しなければならない。

2　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めて、他の専攻または他の研究科から修得させた授業科目（特別研究Ⅰ・Ⅱを除く）の単位は、４単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

生物工学専攻　博士後期課程

科目区分	分野	授業科目	単位数		
			必修	選択必修	選択
専門科目	動物分子生命工学	進化発生学特殊研究		6	
	生殖再生生命工学	体外受精特殊研究		6	
		幹細胞工学特殊研究		6	
		エピジェネティクス工学特殊研究		6	
	植物分子生命工学	細胞工学特殊研究		6	
		生物情報学特殊研究		6	
		植物分子育種学特殊研究		6	
	生命環境工学	生物生産資源工学特殊研究		6	
		応用微生物遺伝学特殊研究		6	
		ウイルス工学特殊研究		6	
	生体機能分子工学	生物機能物質特殊研究		6	
		酵素化学特殊研究		6	
		生体物理化学特殊研究		6	
	食品生命工学	食品科学特殊研究		6	
		食品免疫学特殊研究		6	
		食品品質制御特殊研究		6	
		食品衛生管理工学特殊研究		6	
		食品機能学特殊研究		6	
共通科目		動物生命科学特論			2
		研究管理能力開発基礎			2
		海外研究インターンシップ			1
		特殊講義Ⅰ			2
		特殊講義Ⅱ			2
		大学の授業設計と実践方法			2
		ジョブ型研究インターンシップ			2
		コミュニケーションスキル演習			1
		実学コラボレーション演習			2
		博士リテラシー			2

＜履修方法＞

３年以上在学し､特殊研究の授業科目の中から選定した１科目６単位(これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、合計６単位以上を修得しなければならない。

生体システム工学専攻　博士後期課程

科目区分	分野	授業科目	単位数		
			必修	選択必修	選択
専門科目	ナノ・機能材料工学	デバイスプロセス工学特殊研究		6	
		薄膜物性工学特殊研究		6	
		マイクロ･ナノシステム工学特殊研究		6	
	生体医工	人工臓器学特殊研究		6	

	学	バイオメカニクス特殊研究		6	
		医用化学工学特殊研究		6	
	情報通信工学	複合生命情報解析特殊研究		6	
		視覚情報処理特殊研究		6	
	人間生活環境工学	システムデザイン特殊研究		6	
		機械振動音響工学特講			2
		カラーサイエンス特殊研究		6	
		安全心理学特殊研究		6	
		応用力学特講			2
	先進計算科学	電磁波計算工学特殊研究		6	
		分子理論計算科学特論		6	
		バイオスーパーコンピューティング特殊研究		6	
	特別演習	ナノ・機能材料工学特別演習			2
		生体医工学特別演習			2
		情報通信工学特別演習			2
		人間生活環境工学特別演習			2
		先進計算科学特別演習			2
共通科目		生体システム工学特別講義			2
		研究スキルグローバル化特別講義			2
		大学の授業設計と実践方法			2
		ジョブ型研究インターンシップ			2
		コミュニケーションスキル演習			1
		実学コラボレーション演習			2
		博士リテラシー			2

＜履修方法＞

1　３年以上在学し、特殊研究の授業科目の中から選定した１科目６単位（これをその学生の専修科目、この特殊研究の担当教員を指導教員とする。）を必修とし、指導教員による研究指導を受け、必修科目、専修科目に関連する特別演習科目２単位、合計８単位以上を修得しなければならない。

2　博士論文を提出し、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない。

システム工学研究科

システム工学専攻　博士前期課程

区分	コース	分野	授業科目	単位数		
				必修	選択必修	選択
専門科目	生物化学コース	生物化学	化学応用工学特論		4	
			機能物性化学特論		4	
			生物応用工学特論		4	
			生命システム工学特論		4	
			生体関連化学特論			2
			分子機能化学特論			2
			ナノバイオサイエンス特論			2
			生体分子化学特論			2
		特別研究	生物生命工学特別研究Ⅰ	6		

			生物生命工学特別研究Ⅱ	6		
		共通	化学生命工学特論			2
			生命工学関連特別講義			2
	機械工学コース	材料加工	金属材料加工学特論		2	
			生産加工学特論		2	
			機械力学特論		2	
			機能材料工学特論		2	
			固体力学特論		2	
		エネルギー	粘性流体力学特論		2	
			熱工学特論		2	
		計測制御	計測自動制御特論		2	
		特別研究	機械工学特別研究Ⅰ	6		
			機械工学特別研究Ⅱ	6		
		共通	機械工学関連特別講義			2
	ロボティクスコース	制御	ロボットシステム制御特論		2	
			システムインテグレーション特論		2	
			ロボット情報学特論		2	
			ロボットメカニズム特論		2	
		システム	車両運動力学特論		2	
			生体流動学特論		2	
			機械システム制御設計特論		2	
			フィールドロボット特論		2	
		特別研究	ロボティクス特別研究Ⅰ	6		
			ロボティクス特別研究Ⅱ	6		
	電子情報工学コース	電子工学	電子通信工学特論		2	
			電子回路工学特論		2	
			レーザー工学特論		2	
		計測制御工学	計測工学特論		2	
		情報工学	知能情報工学特論		2	
			数理情報工学特論		2	
			医用画像処理特論		2	
			画像科学特論		2	
		特別研究	電子情報工学特別研究Ⅰ	6		
			電子情報工学特別研究Ⅱ	6		
	情報コース	情報数理	生産システム特論		2	
			計算知能特論		2	
		情報メディア	音響処理特論		2	
			画像処理特論		2	
			メディア情報特論		2	
			マルチメディア特論		2	

		特別研究	情報特別研究Ⅰ	6		
			情報特別研究Ⅱ	6		
		共通	情報システム特論			2
			ヒューマンインタフェース特論			2
	建築コース	意匠・計画	建築意匠学特論		2	
			意匠設計学特論		2	
			建築計画学特論		2	
			意匠設計実務研修			4
			意匠設計実務演習			4
			建築計画特論			2
			建築計画演習			2
			意匠設計特論			2
			意匠設計演習			2
		環境・設備	建築環境学特論		2	
			環境設計学特論		2	
			設備設計実務研修			4
			建築環境特論			2
			建築環境演習			2
			設備設計特論			2
			設備設計演習			2
		構造・材料	構造解析学特論		2	
			構造工学特論		2	
			建築材料学特論		2	
			建築生産学特論		2	
			構造創生学特論		2	
			構造設計実務研修			4
			構造計画特論			2
			構造計画演習			2
			構造解析特論			2
			構造解析演習			2
			構造設計特論			2
			構造設計演習			2
		特別研究	建築学特別研究Ⅰ	6		
			建築学特別研究Ⅱ	6		
		共通	建築関連特別講義			2
			単位互換科目			
共通基礎科目	基礎数理科学		代数学特論			2
			解析学特論			2
			応用幾何学特論			2
			応用確率統計特論			2
			システム代数学特論			2
			論理数学特論			2
			システム工学特論			2

	国際・キャリア		英語論文作成演習		2	
			英語プレゼンテーション実習		2	
			海外語学研修		2	
			実践技術者倫理	2		
			キャリア教育特別講義			2
横断科目	コース基礎	生物化学	化学生命工学基礎特別講義		2	
		機械工学	機械工学基礎特別講義		2	
		ロボティクス	ロボティクス基礎特別講義		2	
		電子情報工学	電子情報工学基礎特別講義		2	
		情報	情報基礎特別講義		2	
		建築	建築基礎特別講義		2	
	特修		システム工学特別研修			2
			プロジェクト研修			2
			単位互換科目			2

＜履修方法＞

1　「専門科目」の選択必修科目の中から選択した１科目２単位（生物化学コースのみ４単位とし、これをその学生の専修科目とする）、専修科目の属するコースの特別研究２科目12単位、「共通基礎科目」の必修科目２単位ならびに選択必修科目の中から選択した１科目２単位、及び「横断科目（コース基礎）」の中から選択した１科目２単位（専修科目の属するコースの科目を除く）を必修とし、さらにそれら科目を除く授業科目の内「専門科目」８単位以上を含む10単位以上（生物化学コースのみ６単位以上を含む８単位）、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、「横断科目（コース基礎）」の中から選択する１科目２単位は「横断科目（特修）」で振り替えることができる。また、建築コースの実務研修（学外インターンシップ）科目または実務演習（学内インターンシップ）科目の４単位を取得した場合は、この１科目２単位の取得は免除される。

2　学生は専修科目を担当する教員を指導教員とし、１名以上の副指導教員を加えた複数指導教員による研究指導ならびに授業科目の選択等研究一般に関する指導を受けなければならない。

3　指導教員が当該学生の教育、研究上特に必要と認めて、他の研究科又は他の大学院から修得させた授業科目（講義）の単位は、10単位を限度として所定の単位数に充当することができる。

システム工学専攻　博士後期課程

授業科目		単位数		
		必修	選択必修	選択
特殊研究	マテリアルデザイン化学特殊研究		6	
	生物変換制御学特殊研究		6	
	生物物理化学特殊研究		6	
	機能性分子組織化学特殊研究		6	
	建築構造学特殊研究		6	
	建築計画学特殊研究		6	
	建築材料学特殊研究		6	
	意匠設計学特殊研究		6	
	材料・加工工学特殊研究		6	
	熱・流体エネルギー特殊研究		6	
	情報制御システム特殊研究		6	

	ロボット情報学特殊研究		6	
	ロボットメカニズム特殊研究		6	
	メディア情報処理特殊研究		6	
	電気エネルギー特殊研究		6	
	計測システム工学特殊研究		6	
	レーザー工学特殊研究		6	
関連科目	機能材料設計化学特論			2
	環境化学特論			2
	分子生命化学特論			2
	応用生命工学特論			2
	生命システム情報学特論			2
	構造デザイン学特論			2
	建築構造材料学特論			2
	建築伝熱工学特論			2
	溶接構造学特論			2
	環境デザイン学特論			2
	建築デザイン学特論			2
	素形材工学特論			2
	接合工学特論			2
	ロボット・システム工学特論			2
	生体流動システム学特論			2
	先端ロボット情報学特論			2
	先端ロボットメカニズム特論			2
	光熱工学特論			2
	乱流輸送現象特論			2
	人間機械システムデザイン特論			2
	材料物性工学特論			2
	超精密成形加工学特論			2
	複雑系力学特論			2
	音響情報処理特論			2
	画像情報処理特論			2
	電気機器学特論			2
	計測システム特論			2
	レーザー加工工学特論			2
共通科目	大学の授業設計と実践方法			2
	ジョブ型研究インターンシップ			2
	コミュニケーションスキル演習			1
	実学コラボレーション演習			2
	博士リテラシー			2

＜履修方法＞

1　本課程に３年以上在学し、「特殊研究」の授業科目の中から選定した１科目６単位（これをその学生の専修科目とする）を必修とし、さらに「関連科目」の授業科目の中から専修科目と関連する授業科目２単位以上、合計10単位以上を修得しなければならない。

2　学生は専修科目を担当する教員を指導教員とする。さらに、指導教員と協議のうえ副指導教員を選定し、その副指導教員を加えた複数指導教員による研究指導を受けなければならない。

産業理工学研究科
産業理工学専攻　博士前期課程

科目区分	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
基礎共通科目	産業技術特論	2		
	技術文書作成演習	1		
	実践英語演習	1		
専修科目	【生物環境化学コース】			
	材料化学特論		2	
	環境科学特論		2	
	生物化学特論		2	
	【電子情報工学コース】			
	応用電子工学特論		2	
	制御情報工学特論		2	
	情報システム特論		2	
	数理システム特論		2	
	【社会環境科学コース】			
	環境計画特論		2	
	造形計画特論		2	
	経営システム特論		2	
関連科目	【材料化学系】			
	セラミックス材料化学特論			2
	無機材料化学特論			2
	有機材料化学特論			2
	分子材料化学特論			2
	機能性材料化学特論			2
	生物材料化学特論			2
	【環境科学系】			
	システム環境工学特論			2
	材料分析化学特論			2
	地球環境化学特論			2
	界面化学特論			2
	生物環境化学特論			2
	生物資源化学特論			2
	【生物化学系】			
	遺伝子工学特論			2
	微生物工学特論			2
	分子遺伝学特論			2
	生物機能化学特論			2
	細胞生物学特論			2
	分子生物学特論			2
	食品化学特論			2
	生理化学特論			2
	【応用電子工学系】			

	電子計測工学特論			2
	パワーエレクトロニクス特論			2
	電気回路理論特論			2
	電子回路理論特論			2
	電磁界解析特論			2
	【制御情報工学系】			
	情報通信工学特論			2
	ソフトウェア工学特論			2
	インターネット工学特論			2
	ロボティクス特論			2
	ハードウェア工学特論			2
	【情報システム系】			
	情報処理特論			2
	メディア情報特論			2
	情報構造特論			2
	情報通信特論			2
	システム開発特論			2
	画像情報工学特論			2
	実験計画法特論			2
	システムアーキテクチャ特論			2
	【数理システム系】			
	数理システム工学特論			2
	応用代数学特論			2
	情報数理特論			2
	量子情報理論特論			2
	【環境計画系】			
	建築計画特論			2
	建築構造特論			2
	建築防災システム工学特論			2
	建築施工特論			2
	環境工学特論			2
	建築環境設備特論			2
	【造形計画系】			
	建築意匠特論			2
	建築デザイン特論			2
	インテリア計画特論			2
	画像設計特論			2
	空間構成特論			2
	【経営システム系】			
	マーケティング特論			2
	経営戦略特論			2
	金融経済特論			2
	環境経済学特論			2
	会計学特論			2

	財務会計特論			2
	スポーツマネジメント特論			2
演習科目	セミナーⅠ	2		
	セミナーⅡ	2		
	特別研究Ⅰ	6		
	特別研究Ⅱ	6		

＜履修方法＞

1　２年以上在学し、専修科目の中から選定した１科目２単位（これをその学生の専修科目とする）と特別研究Ⅰ、Ⅱの計12単位（その担当者をその学生の指導教員とする）及びセミナーⅠ、Ⅱの計４単位、さらに基礎共通科目から４単位以上と関連科目から８単位以上を含めて、合計30単位以上を修得しなければならない。

2　指導教員が当該学生の教育研究上特に必要と認めて、他の研究科又は他の大学院から修得させた授業科目（講義）の単位は、８単位を限度として所定の単位数に充当できる。

3　本研究科の授業科目（講義）を、科目等履修生として既に修得している場合、その単位を所定の単位数に充当できる。

産業理工学専攻　博士後期課程

科目区分	授業科目	単位数		
		必修	選択必修	選択
専修科目	【生物環境化学コース】			
	細胞機能生化学特殊研究		4	
	食品生命機能学特殊研究		4	
	機能材料分析化学特殊研究		4	
	微生物工学特殊研究		4	
	資源化学特殊研究		4	
	生物環境化学特殊研究		4	
	機能性高分子特殊研究		4	
	細胞生物学特殊研究		4	
	環境材料科学特殊研究		4	
	機能性無機材料特殊研究		4	
	【電子情報工学コース】			
	半導体デバイス工学特殊研究		4	
	数理科学特殊研究		4	
	パルス電磁エネルギー工学特殊研究		4	
	知能情報工学特殊研究		4	
	荷電粒子ビーム特殊研究		4	
	情報通信工学特殊研究		4	
	スピントロニクス特殊研究		4	
	認知科学特殊研究		4	
	エネルギーデバイス工学特殊研究		4	
	画像情報工学特殊研究		4	
	情報通信特殊研究		4	
	システム開発特殊研究		4	
	メディア情報特殊研究		4	
	情報構造特殊研究		4	
	量子情報理論特殊研究		4	

	人間情報特殊研究		4	
	計算機工学特殊研究		4	
	【社会環境科学コース】			
	環境工学特殊研究		4	
	建築構造特殊研究		4	
	空間計画特殊研究		4	
	建築設計特殊研究		4	
	視覚表現特殊研究		4	
	建築環境設備特殊研究		4	
	環境経済学特殊研究		4	
	経営戦略特殊研究		4	
	金融経済特殊研究		4	
	会計学特殊研究		4	
	マーケティング特殊研究		4	
	財務会計特殊研究		4	
演習科目	演習	6		
関連科目	ジョブ型研究インターンシップ			2
	大学の授業設計と実践方法			2
	コミュニケーションスキル演習			1
	実学コラボレーション演習			2
	博士リテラシー			2

＜履修方法＞

1　３年以上在学し、専修科目の中から選定した１科目４単位（これをその学生の専修科目とし、その担当者を指導教員とする）と演習科目６単位以上を含めて、合計10単位以上を修得し、指導教員による研究指導を受けなければならない。

2　指導教員が必要と認めたとき、所定の単位以外にその授業科目（講義）も履修しなければならない。

医学研究科　博士課程【一般コース】

専攻	専攻分野	選択必修科目（主科目）	単位	選択科目（副科目）	単位
医学系	神経構造機能学	神経構造機能学特論Ａ（講義・演習）	4	神経解剖学Ⅰ	2
		同上（実験的研究）	8	神経解剖学Ⅱ	2
		神経構造機能学特論Ｂ（講義・演習）	4	神経生物学Ⅰ	2
		同上（実験的研究）	8	神経生物学Ⅱ	2
	システム脳科学	システム脳科学特論Ａ（講義・演習）	4	脳情報処理特論	2
		同上（実験的研究）	8	感覚・運動システム理論	2
		システム脳科学特論Ｂ（講義・演習）	4	認知神経システム理論	2
		同上（実験的研究）	8	記憶・学習システム理論	2
	分子生体制御学	分子生体制御学特論Ａ（講義・演習）	4	生理活性物質の構造と機能	2
		同上（実験的研究）	8	凝固線溶系因子の制御	2

		分子生体制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	細胞機能と応答の制御	2
		同上（実験的研究）	8	遺伝子工学的手法を用いた蛋白質機能の解析	2
	分子腫瘍病態学	分子腫瘍病態学特論Ａ（講義・演習）	4	腫瘍生物学	2
		同上（実験的研究）	8	ゲノム解析学	2
		分子腫瘍病態学特論Ｂ（講義・演習）	4	遺伝子診断学	2
		同上（実験的研究）	8		
	細胞病態制御学	細胞病態制御学特論Ａ（講義・演習）	4	一般医化学	2
		同上（実験的研究）	8	分子医化学	2
		細胞病態制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	細胞生化学	2
		同上（実験的研究）	8	病態生化学	2
	薬理学	薬理学特論Ａ（講義・演習）	4	生物科学（薬理分野）	2
		同上（実験的研究）	8	創薬科学（ターゲットバリデーション）	2
		薬理学特論Ｂ（講義・演習）	4	創薬科学（ハイスループットスクリーニング）	2
		同上（実験的研究）	8	臨床薬理学	2
	分子病理学	分子病理学特論Ａ（講義・演習）	4	組織化学的方法論	2
		同上（実験的研究）	8	実験病理学的方法論	4
		分子病理学特論Ｂ（講義・演習）	4	人体病理学	2
		同上（実験的研究）	8	生検病理学	2
				神経病理方法論	2
				神経病理学	2
				腫瘍病理学実習	4
	神経ウイルス学・免疫学	神経ウイルス学特論Ａ（講義・演習）	4	細胞生物学	2
		同上（実験的研究）	8	分子生物学	2
		神経免疫学特論Ｂ（講義・演習）	4	免疫組織化学	2
		同上（実験的研究）	8	遺伝子工学	2
	免疫応答制御学	免疫応答制御学特論Ａ（講義・演習）	4	免疫組織化学方法論	2
		同上（実験的研究）	8	免疫機能解析方法論	2
		免疫応答制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	免疫ゲノム解析実習	2
		同上（実験的研究）	8	生体内免疫応答解析実習	2
	予防医学・行動科学	予防医学・行動科学特論Ａ（講義・演習）	4	健康リスク管理概論	2
		同上（実験的研究）	8	環境目標値概論	2
		予防医学・行動科学特論Ｂ（講	4	保健行動学概論	2

		義・演習）			
		同上（実験的研究）	8	健康リスク評価概論	2
				環境疫学	2
				環境衛生学・環境生理学概論	2
	疫学・健康科学	疫学・健康科学特論Ａ（講義・演習）	4	臨床疫学	2
		同上（実験的研究）	8	医学統計学	2
		疫学・健康科学特論Ｂ（講義・演習）	4	生活習慣病疫学特論	2
		同上（実験的研究）	8	地域疫学研究調査実習	2
	法医学	法医学特論Ａ（講義・演習）	4	医事法学特論	2
		同上（実験的研究）	8	環境科学特論	2
		法医学特論Ｂ（講義・演習）	4	損傷特論	2
		同上（実験的研究）	8		
	循環器内科学	循環器内科学特論Ａ（講義・演習）	4	心血行力学	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	心不全	2
		循環器内科学特論Ｂ（講義・演習）	4	虚血性心疾患	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	不整脈	2
	腎臓病態制御学	腎臓病態制御学特論Ａ（講義・演習）	4	腎臓病態生理学	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	腎臓分子病態学	2
		腎臓病態制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	糖尿病性腎症の臨床	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	腹膜透析学	2
	内分泌代謝病態制御学	内分泌代謝病態制御学特論Ａ（講義・演習）	4	糖尿病の成因・病態	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	糖尿病の予知・予防・治療	2
		内分泌代謝病態制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	臓器特異的自己免疫疾患（１型糖尿病、甲状腺自己免疫）	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	内分泌代謝疾患の臨床	2
	血液・免疫・膠原病／機能制御学（一般コース）	血液・免疫・膠原病／機能制御学特論Ａ（講義・演習）	4	血球発生学	2
		同上（実験的研究）	8	分子病態学	2
		血液・免疫・膠原病／機能制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	造血器腫瘍学	2
		同上（実験的研究）	8	膠原病病態学	2
				炎症病態学	2
	呼吸器･アレルギー病態制御学	呼吸器・アレルギー病態制御学特論Ａ（講義・実習）	4	喘息病態学	2
		同上（実験的研究）	8	呼吸生理学	2
		呼吸器・アレルギー病態制御学特論Ｂ（講義・実習）	4	呼吸器感染症学	2
		同上（実験的研究）	8	免疫・アレルギー学	2
				気管支内視鏡学	2

				呼吸器病態学	2
	神経病態制御学	神経病態制御学特論Ａ（講義・演習）	4	神経免疫学	2
		同上（実験的研究）	8	神経病理学	2
		神経病態制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	電気生理学	2
		同上（臨床的研究）	8	脳循環代謝病学	2
	消化器病態制御学	消化器病態制御学特論Ａ（講義・演習）	4	肝臓腫瘍学	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	肝炎ウイルス学	2
		消化器病態制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	消化器画像診断学	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	消化器内視鏡学	2
				消化器免疫学	2
				大腸炎症・腫瘍学	2
	精神病態医学	精神病態医学特論Ａ（講義・演習）	4	精神薬理学	2
		同上（実験的研究）	8	老年精神医学	2
		精神病態医学特論Ｂ（講義・演習）	4	精神症候学	2
		同上（臨床的研究）	8		
	発達小児医学	発達小児医学特論Ａ（講義・演習）	4	小児循環器病学	2
		同上（実験的研究）	8	小児アレルギー学	2
		発達小児医学特論Ｂ（講義・演習）	4	小児悪性腫瘍学	2
		同上（臨床的研究）	8	新生児・未熟児学	2
	環境皮膚病態学	環境皮膚病態学特論Ａ（講義・演習）	4	皮膚感染論	2
		同上（臨床的研究）	8	皮膚病理組織学論	2
		環境皮膚病態学特論Ｂ（講義・演習）	4	皮膚悪性腫瘍の診断と治療学論	2
		同上（基礎生化学的研究）	8	全身管理学論	2
				紫外線の生物理学的作用論	2
	放射線診断･画像応用治療学	放射線診断・画像応用治療学特論Ａ（講義・演習）	4	画像診断学	4
		同上（臨床的研究）	8	核医学	4
		放射線診断・画像応用治療学特論Ｂ（講義・演習）	4	画像応用低侵襲治療学	4
		同上（基礎的臨床的研究）	8		
	臨床検査医学	臨床検査医学特論Ａ（講義・演習）	4	血液検査学	2
		同上（臨床的研究）	8	止血・血栓学	2
		臨床検査医学特論Ｂ（講義・演習）	4	臨床化学	2
		同上（臨床的研究）	8	免疫血清学	2
				臨床微生物学	2

				輸血検査	2
				生理機能検査	2
				検査診断学	2
	臓器病態制御外科学Ⅰ	臓器病態制御外科学Ⅰ特論Ａ（講義・演習）	4	高齢者外科学	2
		同上（臨床的研究）	8	消化器外科学	2
		臓器病態制御外科学Ⅰ特論Ｂ（講義・演習）	4	腹部外傷学	2
		同上（実験的研究）	8	内視鏡外科学	2
	臓器病態制御外科学Ⅱ	臓器病態制御外科学Ⅱ特論Ａ（講義・演習）	4	肝胆膵外科学	2
		同上（臨床的研究）	8	外科代謝・免疫学	2
		臓器病態制御外科学Ⅱ特論Ｂ（講義・演習）	4	臓器移植学	2
		同上（実験的研究）	8	組織・臓器移植学	2
	臓器病態制御外科学Ⅲ	臓器病態制御外科学Ⅲ特論Ａ（講義・演習）	4	呼吸器外科学	4
		同上（臨床的研究）	8	内分泌外科学	4
		臓器病態制御外科学Ⅲ特論Ｂ（講義・演習）	4	小児外科学	4
		同上（実験的研究）	8	腫瘍外科学実習	4
	臓器病態制御外科学Ⅳ	臓器病態制御外科学Ⅳ特論Ａ（講義・演習）	4	上部消化管外科学	2
		同上（臨床的研究）	8	外科侵襲学	2
		臓器病態制御外科学Ⅳ特論Ｂ（講義・演習）	4	臓器機能外科学	2
		同上（実験的研究）	8	低侵襲機能温存外科学	2
	運動器機能病態制御学	運動器機能病態制御学特論Ａ（講義・演習）	4	生体機能学	2
		同上（臨床的研究）	8	腫瘍診断学	2
		運動器機能病態制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	リウマチ・関節外科学	2
		同上（実験的研究）	8	骨軟骨代謝学	2
				末梢神経外科学	2
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学特論Ａ（講義・演習）	4	運動器リハビリテーション学	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	神経リハビリテーション学	2
		リハビリテーション医学特論Ｂ（講義・演習）	4	呼吸リハビリテーション学	2
		同上（臨床・実験的研究）	8	循環器リハビリテーション学	2
	腎泌尿器外科学	腎泌尿器外科学特論Ａ（講義・演習）	4	尿路神経学	2
		同上（実験的研究）	8	泌尿器腫瘍学	2
		腎泌尿器外科学特論Ｂ（講義・演習）	4	尿路結石学	2
		同上（実験的研究）	8	移植免疫学	2
				臓器保存学	2

	視覚科学	視覚科学特論Ａ（講義・演習）	4	神経眼科学	2
		同上（臨床的研究）	8	小児眼科学	2
		視覚科学特論Ｂ（講義・演習）	4	眼光学	2
		同上（臨床的研究）	8		
	感覚器頭頸部外科制御学	感覚器頭頸部外科制御学特論Ａ（講義・演習）	4	人工感覚器学	2
		同上（臨床的研究）	8	耳科学・神経耳科学	2
		感覚器頭頸部外科制御学特論Ｂ（講義・演習）	4	頭頸部外科学	2
		同上（実験・臨床的研究）	8	鼻科学	2
	女性機能病態･周産期医学	女性機能病態・周産期医学特論Ａ（講義・演習）	4	産科婦人科手術学	2
		同上（臨床的研究）	8	臨床細胞診断学	2
		女性機能病態・周産期医学特論Ｂ（講義・演習）	4	産科麻酔学	2
		同上（臨床的研究）	8	生殖生理学	2
	麻酔・疼痛制御・集中治療学	麻酔・疼痛制御・集中治療学特論Ａ（講義・演習）	4	周術期全身管理	2
		同上（臨床的研究）	8	麻酔薬の新しい展望	2
		麻酔・疼痛制御・集中治療学特論Ｂ（講義・演習）	4	集中治療学	2
		同上（臨床的研究）	8	ペインクリニックの基礎と臨床	2
	神経機能制御外科学	神経機能制御外科学特論Ａ（講義・演習）	4	神経外科解剖学特論	2
		同上（臨床的研究）	8	神経形態機能学特論	2
		神経機能制御外科学特論Ｂ（講義・演習）	4	分子神経生物学特論	2
		同上（実験的研究）	8	神経外科機器工学特論	2
	心血管機能制御外科学	心血管機能制御外科学特論Ａ（講義・演習）	4	超音波診断学	2
		同上（臨床的研究）	8	小児循環器学	2
		心血管機能制御外科学特論Ｂ（講義・演習）	4	虚血性心疾患の外科	2
		同上（実験・臨床的研究）	8	人工臓器学・心移植	2
	形成・再建外科学	形成・再建外科学特論Ａ（講義・演習）	4	熱傷の病態生理と治療	2
		同上（臨床的研究）	8	マイクロサージャリー	2
		形成・再建外科学特論Ｂ（講義・演習）	4	頭蓋顎顔面外科	2
		同上（臨床的研究）	8	外表先天異常学	2
				組織工学（培養人工骨・軟骨・腱）	2
	救急医学	救急医学特論Ａ（講義・演習）	4	外傷学	2
		同上（臨床的研究）	8	中毒学	2
		救急医学特論Ｂ（講義・演習）	4	特殊病態学	2
		同上（臨床的研究）	8	生体侵襲学	2

医学研究科　博士課程【がんプロコース】

専攻	専攻分野	選択必修科目（主科目）	単位	選択科目（副科目）	単位
医学系	分子病理学(分子腫瘍病理学コース)	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	診断病理学	2
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	分子病理学	2
		腫瘍病理学実習	8	分子腫瘍学	2
		分子腫瘍病理学演習	8	腫瘍内科学特論	2
		分子生物学演習	4		
	医学物理学	新「共通特論Ⅰ」（臨床腫瘍学総論）	2	新「共通特論Ⅱ」（臨床腫瘍学各論）	2
		放射線医学物理学	2	放射線生物学	2
		放射線安全・放射線防護	2	放射線腫瘍学実習	2
		放射線医学総論	2	腫瘍画像診断学実習	2
		高精度放射線治療学	2		
		放射線腫瘍学総論	2		
		解剖学・生理学概論	2		
		放射線治療計画法演習	2		
		放射線医学物理実習	6		
		医療・画像情報学	2		
	医学物理学(高度先端医学物理研究者養成コース)	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	高精度放射線治療学	2
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	放射線生物学	2
		医療・画像情報学	2	放射線腫瘍学実習	2
		放射線医学物理学	2	腫瘍画像診断学実習	2
		放射線安全・放射線防護	2		
		放射線医学総論	2		
		放射線腫瘍学総論	2		
		解剖学・生理学概論	2		
		放射線治療計画法演習	2		
		放射線医学物理実習	6		
	血液・免疫・膠原病／機能制御学(新ニーズ対応型造血器腫瘍･がん薬物療法専門医コース)	血液腫瘍学実習Ⅰ	14	血球発生学	2
		臨床腫瘍学実習	4	分子病態学	2
		がん緩和医療演習	2	造血器腫瘍学	2
		新「共通特論Ⅰ」（臨床腫瘍学総論）	2	多職種参加型症例検討演習	1
		新「共通特論Ⅱ」（臨床腫瘍学各論）	2	模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習	1
	血液・免疫・膠原病／機能制御学(次世代対応型造血器腫瘍･がん薬物療法専門医養成コース)	造血器腫瘍学実習Ⅰ	14	造血発生学	1
		臨床腫瘍学実習Ⅰ	4	分子病態学	2
		腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	腫瘍免疫学	1
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	造血器腫瘍学	2

		がん緩和医療演習Ⅰ	2	地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（ＣＳ演習） 模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（ＳＰ演習）	1 1
	腫瘍病態制御学	新「共通特論Ⅰ」（臨床腫瘍学総論） 新「共通特論Ⅱ」（臨床腫瘍学各論） がん緩和医療演習 多職種参加型症例検討演習 模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習 腫瘍内科学臨床実習Ⅰ 血液腫瘍学実習 放射線腫瘍学実習 がん医療地域連携演習	2 2 2 1 2 6 4 4 1	分子腫瘍学 癌薬物治療学 薬理遺伝学 呼吸器腫瘍学 腫瘍疫学 腫瘍内科学特論 臨床腫瘍学演習Ⅰ（呼吸器、頭頚部、脳） 臨床腫瘍学演習Ⅱ（消化器） 臨床腫瘍学演習Ⅲ（乳腺、泌尿器科） 臨床腫瘍学演習Ⅳ（婦人科・原発不明がん） がん臨床研究計画演習 腫瘍内科学臨床実習Ⅱ 腫瘍内科学基礎研究実習 腫瘍内科学臨床実習Ⅲ 腫瘍内科学教育実習Ⅰ	2 2 2 2 2 2 4 4 4 2 6 6 6 6
	腫瘍病態制御学（個別化医療を推進する腫瘍内科学コース）	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発） 臨床腫瘍学実習Ⅰ 模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（ＳＰ演習） 地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（ＣＳ演習） 血液腫瘍学実習 放射線腫瘍学実習	2 2 10 1 1 4 4	分子腫瘍学 がん薬物治療学 臨床腫瘍学演習 がん臨床研究計画演習 ゲノム解析学 腫瘍免疫基礎研究演習 がんトランスレーショナルリサーチ演習 臨床腫瘍学実習Ⅱ がん緩和医療演習Ⅰ	2 2 4 2 4 4 4 6 2
	腫瘍病態制御学（がん専門薬剤師コース）	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2 2	分子腫瘍学 がん薬物治療学	2 2

		がん専門薬剤学実習	8	臨床腫瘍学演習	4
		模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（ＳＰ演習）	1	がん臨床研究計画演習	2
		地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（ＣＳ演習）	1	ゲノム解析学	4
		外来がん薬剤学実習	8	腫瘍免疫基礎研究演習	4
		がんゲノムエキスパートパネル演習	2	がんトランスレーショナルリサーチ演習	4
	腫瘍病態制御学（がん専門基礎研究コース（正規課程））	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	6	がんゲノム研究演習	4
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	6	腫瘍免疫基礎研究演習	4
		分子腫瘍学	4	腫瘍内科学基礎研究実習	6
		がん薬物治療学	4	腫瘍内科学特論	2
		薬理遺伝学	4	腫瘍関連機器研究演習	4
		がんトランスレーショナルリサーチ演習	4	模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（ＳＰ演習）	1
				地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（ＣＳ演習）	1
	放射線腫瘍学	新「共通特論Ⅰ」（臨床腫瘍学総論）	2	高精度放射線治療学	2
		放射線腫瘍学総論	2	放射線医学物理学	2
		放射線生物学	2	新「共通特論Ⅱ」（臨床腫瘍学各論）	2
		放射線治療計画法演習	2	連携病院放射線腫瘍学実習	4
		放射線腫瘍学実習	4		
		腫瘍内科学実習	4		
		放射線診断学実習	4		
		腫瘍画像診断学実習	4		
	放射線腫瘍学（放射線腫瘍学先端研究者養成コース）	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	高精度放射線治療学	2
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	放射線医学物理学	2
		放射線腫瘍学総論	2	核医学治療実習	4
		核医学治療総論	2	腫瘍画像診断学実習	2
		放射線生物学	2	連携病院放射線腫瘍学実習	4
		放射線治療計画法演習	2		
		放射線腫瘍学実習	4		
		臨床腫瘍学実習Ⅰ	4		
		放射線診断学実習	4		
	臓器病態制御外科学Ⅰ（下部消化管腫瘍外科専門医養成	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	臨床腫瘍学特論	1
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研	2	臨床腫瘍学演習Ⅱ	2

	コース）	究開発）			
		外科解剖学講義	2	放射線腫瘍学演習	2
		外科侵襲学講義	2	がん緩和医療演習Ⅰ	2
		下部消化管腫瘍学講義	2	模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（ＳＰ演習）	1
		腫瘍外科学実習Ⅰ	4	地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（ＣＳ演習）	1
		腫瘍外科学実習Ⅱ	4	臨床腫瘍学実習Ⅰ	2
		低侵襲外科学講義	2		
		医療統計学講義	2		
		キャンサーボード実習	2		
	臓器病態制御外科学Ⅱ（肝胆膵外科専門医養成コース）	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	がん緩和医療演習Ⅰ	2
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	がん医療地域連携演習	2
		外科解剖学講義	2	集中治療学	2
		外科侵襲学講義	2	臨床腫瘍学実習Ⅰ	4
		肝胆膵外科学講義	2	緩和医療学実習	2
		画像診断学講義	2	肝・膵移植医療実習	2
		がん薬物治療学	2		
		放射線腫瘍学	2		
		低侵襲外科学講義	1		
		医療統計学講義	1		
		がん臨床研究計画演習	2		
		キャンサーボード形式のケーススタディ演習	2		
		大学病院での肝胆膵外科手術・周術期管理実習	2		
	臓器病態制御外科学Ⅲ（呼吸器腫瘍外科専門医養成コース）	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	臓器病態制御外科学Ⅲ特論Ｂ（実験的研究）	8
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	がん緩和医療演習Ⅰ	2
		臓器病態制御外科学Ⅲ特論Ａ（臨床的研究）	8	放射線腫瘍学実習	4
		臓器病態制御外科学Ⅲ特論Ｂ（講義・演習）	4	分子腫瘍学	2
		呼吸器外科学	4	がん薬物治療学	2
		腫瘍外科学実習	4		
	臓器病態制御外科学Ⅳ（多様化する上部消化管がん集学的治療に対応できる外科医養成コース）	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	がん緩和医療学	1
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	がん医療地域連携演習	1
		外科解剖学講義	2	集中治療学	1
		外科侵襲学講義	2	臨床腫瘍学実習Ⅰ	2
		上部消化管腫瘍学講義	4	放射線腫瘍学実習	1

		画像診断学講義	1	がん緩和医療演習Ⅰ	1
		がん薬物治療学	2	職種横断的臨床課題演習	1
		放射線腫瘍学	1		
		低侵襲外科学講義	1		
		医療統計学講義	2		
		がん臨床研究計画演習	1		
		キャンサーボード実習	2		
		大学病院での上部消化管手術・周術期管理実習	2		
	緩和医療学(がん緩和医療専門医養成コース)	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）	2	分子腫瘍学	2
		腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）	2	がん薬物治療学	2
		地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（ＣＳ演習）	1	サイコオンコロジー	2
		模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（ＳＰ演習）	1	腫瘍内科学特論	2
		緩和医療学実習Ⅰ	6	緩和医療学演習Ⅰ（身体）	4
		臨床腫瘍学実習Ⅰ	8	緩和医療学演習Ⅱ（精神）	4
		がん緩和臨床研究計画演習	2	緩和医療学実習Ⅱ	6
		がん医療地域連携演習	2	緩和医療学教育実習	6
				臨床腫瘍学実習Ⅱ	6
				血液腫瘍学実習	4
				放射線腫瘍学実習	4

医学研究科　博士課程【共通選択科目】

専攻	専攻分野	選択科目（副科目）	単位
	【共通】 一般コース がんプロコース	大学の授業設計と実践方法	2
		ジョブ型研究インターンシップ	2
		コミュニケーションスキル演習	1
		実学コラボレーション演習	2
		博士リテラシー	2

＜履修方法＞

1　４年以上在学し、専攻分野の中から選定した１分野の選択必修科目（主科目）24単位と、選択科目（副科目）から６単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、選択科目は系に関係なく選択履修することができる。

実学社会起業イノベーション学位プログラム　修士課程

科目区分		授業科目	単位数		
			必修	選択必修	選択
学際科目	学際基礎科目	実学社会課題ベーシック	2		
		実学社会課題アドバンス	2		
		アントレプレナーシップ概論	2		
		ＤＸ入門	2		
		アントレプレナー・インターフェース講義	1		

		Ｇｌｏｂａｌｉｚａｔｉｏｎ ａｎｄ Ｐｕｂｌｉｃ Ｐｏｌｉｃｙ	2		
	学際応用科目	学際政策形成		1	
		学際エコノミクス		1	
		学際実践起業法務		1	
専門科目		プロブレムインタビュー・データ解析基礎	1		
		プロブレムインタビュー・データ解析実践	1		
		国内外アントレプレナーインターンシップ	2		
		アントレプレナー課題解決実践	2		
		実学ディープテック・インターフェース講義	2		
		事業継承・アトツギベンチャー概論			2
		学際ピッチプレゼンテーション特論	2		
		学際知財戦略	2		
		Ｂｕｓｉｎｅｓｓ ａｎｄ Ｐｉｔｃｈ Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ	2		
		学際実学シミュレーション特論	2		
		アントレプレナーシップ・アカウンティング	2		
特別研究		アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ	4		
		アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ	4		

＜履修方法＞

２年以上在学し、学位プログラムが定める学修目標に沿って設定された授業科目である「アントレプレナーシップ特別研究Ⅰ」及び「アントレプレナーシップ特別研究Ⅱ」を含む必修科目38単位に加えて、学際応用科目の「学際政策形成」、「学際エコノミクス」、「学際実践起業法務」から２単位以上を選択必修とし、合計40単位以上を修得しなければならない。

別表(２)

（単位　円）

課程	博士前期課程及び修士課程			博士後期課程		博士課程
研究科	法学研究科 商学研究科 経済学研究科 総合文化研究科	総合理工学研究科 建築学研究科 情報学研究科 薬学研究科 農学研究科 生物理工学研究科 システム工学研究科 産業理工学研究科	実学社会起業イノベーション学位プログラム	法学研究科 商学研究科 経済学研究科	総合理工学研究科 薬学研究科 農学研究科 生物理工学研究科 システム工学研究科 産業理工学研究科	医学研究科 薬学研究科
費目						
◎入学金	※　100,000 200,000	※　100,000 200,000	※　100,000 200,000	※　不要 200,000	※　不要 200,000	200,000
授業料	１年次　700,000 ２年次　750,000	１年次　950,000 ２年次　1,000,000	１年次　825,000 ２年次　875,000	１年次　700,000 ２年次　750,000 ３年次　770,000	１年次　950,000 ２年次　1,000,000 ３年次　1,030,000	1,000,000

入学検定料	35,000

備考 （1） ※印は本学学部及び大学院を卒業見込・修了見込の者が博士前期課程又は修士課程に進学する場合並びに本学大学院博士前期課程又は修士課程を修了見込の者が博士後期課程に進学する場合に適用する。

（2） ◎印は入学時のみ。

（3） 上記以外に、学生健保共済会費及び校友会終身会費が必要。（ただし、校友会終身会費は既に全額を納めた者は不要。）

（4） 入学検定料について､インターネット出願を利用した場合は１志願ごとに3,000円を減額する。

別記

近畿大学大学院　研究科・専攻の教育・研究の目的について

【近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」】

近畿大学学園は、「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的として掲げています。

この建学の精神と教育の目的に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。

学生の皆さんには、上記の建学の精神と教育の目的を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

【法学研究科の教育・研究の目的について】

現代の法学及び政治学の分野においては、その根底に横たわる重要問題や最先端の内容を教授・研究し､幅広い基盤的な専門知識･考え方を修得するとともに､各研究分野における応用力を身につけ、国際社会、国家または地域社会の発展に向けて、実際に指導的な役割を果たし得る多種多様な専門家を養成が望まれます。

そこで法学研究科では、近畿大学の教育目標のもと、法学及び政治学の各分野における高度な専門能力を養成し、現代社会の法的政治的諸問題を解決していくための専門的な活動を行うことができる能力を涵養することを目的として、密度の高い内容のカリキュラムを組んでいます。このカリキュラムでは、専攻分野の学識を深め、さらに各分野の学識を、理論的・実証的研究によって深める研究活動を可能にします。そして、養成された人材は、法学及び政治学の各分野において専攻する分野における自立した研究者として、または社会及び時代のニーズに適合した高度の専門性を必要とする職業人（実務家）や、次世代の法学教育を担いうる人材として活躍することが期待されます。

【商学研究科の教育・研究の目的について】

商学研究科の教育・研究の目的は、著しく変化する現代の社会と経済、それを形成する技術基盤にいち早く順応し、国内外のビジネス活動に必要な「高度な専門知識と実践的即応力」を備えた研究者や高度専門職業人を養成することです。そのために、「高度な論理的思考力」や「未来に通じた深い洞察力」を身につけ、「実践的でかつ課題解決能力」に秀でた持続可能な社会への貢献ができる人材育成のための教育・研究を行います。

このように商学研究科としては、研究者や高度専門職業人の養成を推進し、具体的には、以下の分野で活躍する「未来志向の実学教育と人格の陶冶」の精神を身につけた人材を輩出します。

①高度な専門的知識･能力を有し､創造性に富んだ研究者､大学の教員（大学院博士課程への進学者）。

②高度な専門的知識と実践力を身につけた実業家、経営コンサルタント、中小企業診断士、税理士、公認会計士。

③専門職として高度な情報分析力・課題解決能力と国際性を備えた企業人、職業会計人、公務員、国税専門官。

④教科に関する専門的知識や語学力、指導力を備えた中等教育における教員。

⑤専門的知識や企画力、創造力、マネジメント能力をもつＮＧＯ／ＮＰＯの職員、各領域でのコーディネーター。

【経済学研究科の教育・研究の目的について】

現代社会では消費者や企業、政府など様々な主体がそれぞれの判断に基づいて経済活動を行っています。経済についての解決すべき問題は数多く残されています。経済学研究科では、経済に関するデータや理論、制度や歴史の知見を活用し、経済問題の解決を目指します。理論・計量分析だけではなく、ＥＢＰＭ（Ｅｖｉｄｅｎｃｅ－Ｂａｓｅｄ　Ｐｏｌｉｃｙ　Ｍａｋｉｎｇ：　エビデンスに基づく政策立案）、経済実験（神経科学的実験を含む）、フィールド調査、文献・史料解読といった分野で先端の研究に携わるバラエティー溢れる研究者が、教員として揃い教育組織が構築されています。

これによって、本学位プログラムでは、このような教育組織を活用し、様々な角度からアプローチする経済学の専門家を養成しています。そして、養成された人材は、経済に関する課題を主体的に発見解決し、実社会で活躍することが期待されます。

【総合理工学研究科の教育・研究の目的について】

総合理工学研究科は、科学と技術が融合する理工学の領域において、先進的かつ独創的な教育・研究を通じて、科学技術の発展、産業の創生を推進し、持続可能な社会の発展と人類の知の創造に貢献することを教育・研究理念とします。

この理念のもと、総合理工学研究科では、専門的研究活動を実践するための特別研究、理工学の広範囲な分野を網羅した専門科目群、研究領域の学際化等に柔軟に対応するための学際科目、グローバル社会で生きる力を育む共通科目を開講しています。高度な教育・研究の実践を通じて、専攻分野における深い知識と応用力を持ち、語学力、企画力、デザイン思考力、情報処理力、指導力、交渉力そして論理的なプレゼンテーション力等､多彩な能力をもった人材の育成を目指します｡これを踏まえ、博士前期課程では専攻分野に立脚した多彩な能力を有する技術者･研究者､博士後期課程においては、理工学の専門分野で新たな研究領域を切り開く能力を有する研究者を育成します。

【建築学研究科の教育・研究の目的について】

建築や都市に関する高度かつ領域横断的な知識を身につけ、国際社会および地域社会で建築や都市環境の創造、運営、再生において建築家、都市計画家、建築技術者および事業者として主導的かつ指導的役割を果たせる人材を養成する教育・研究を行います。本研究科の修了生は建築デザイン、建築計画、都市計画、環境工学、材料工学、構造工学の高度な知識と技術を用いて、社会課題の解決や持続的な建築や都市の環境づくりに創造的に取り組む能力と、それらを活かし実践するために必要なコミュニケーション力や社会的責任感を持った人材として、次世代の建築や都市分野で活躍することが期待されます。

【情報学研究科の教育・研究の目的について】

国が掲げる「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を実現するために、高度で広範な専門知識と倫理観に基づき､自ら考え行動することで､新たな知見や価値を生み出すことができる技術者や研究者を養成する。そのために、幅広い課題に対処できる高い情報収集・分析能力、課題に対する問題解決能力、専門知識に基づいて自らの思考を説明し妥当性を議論できる論理的かつ批判的思考力、グローバルな情報発信能力の修得を目指す。

【薬学研究科・専攻の教育・研究の目的について】

近畿大学大学院薬学研究科では、医療薬学科（６年制）を基盤とする博士課程である「薬学専攻博士課程」と、創薬科学科（４年制）を基盤とする「薬科学専攻博士前期・後期課程」を設置し、薬学に関する独創的な研究を通して、卓越した洞察力と問題解決能力によって将来多様な薬学領域において指導的立場で活躍できる人材を養成・輩出することを理念としています。そして、基礎から臨床に及ぶ多様な薬学領域において、指導的立場で活躍し、薬学的観点から生命科学の進歩に貢献しうる人材の育成を目指しています。

「薬学専攻」では、薬剤師として医療に従事するだけでなく、研究者としての観点から新しい医薬品の研究や臨床開発、行政等幅広い分野で活躍するファーマシスト・サイエンティストを輩出していくことを念頭に置いています。さらに、臨床薬学研究の実績を有する国立循環器病研究センター、近畿大学病院、近畿大学奈良病院、大阪公立大学医学部附属病院、堺市立総合医療センター、さらにはスギ薬局と連携し、連携大学院方式を採用することで、大学院生の臨床能力および識見の向上や高度

な医療人の養成を試み、様々な分野の臨床研究に従事することのできる薬剤師を育成します。
「薬科学専攻」では、薬学的観点から生命科学の進歩に貢献しうる人材を育成し、将来大学や公的機関などアカデミアでは最先端の創薬研究を展開し、企業の研究者としては臨床開発の最前線に立てる人材の輩出を目指します。また、ネイティブスピーカーの教員による科学英語コミュニケーション先進演習や、英語による研究成果発表に関連する演習を設け、グローバルに活躍できる人材の育成を目指します。
【総合文化研究科の教育・研究の目的について】
人文・社会・自然の諸科学を横断し、各分野の知識を別々に身につけるのではなく、それらが共通の基盤の上に成立していることを知り、考える力や創造する力を総合文化研究科では養います。情報が飛び交い、複雑化していく現代にあって、総合的な視野を獲得することは、現実の諸問題に立ち向かい、解決を模索しつつ、理想を追求していくという本学の「実学」「未来志向」という教育理念を実践するものです。
そのために個々の学問分野の知識を学ぶことがまず重視され、その基礎のうえに学際的な交流が進められます。この過程を通じて、より高められた情報収集能力、分析能力、企画能力、論理展開能力をもち、クリエイティヴな文化を発信しつつ国際社会および地域社会に貢献していく以下のような人材の育成をめざします。
①専門的知識と研究・調査能力を有する研究者、大学教員。
②専門的知識と実践力を身につけた批評家、編集者、ジャーナリスト、学芸員、都市計画コンサルタント、臨床心理士、産業カウンセラー等。
③教科に関する専門的知識や語学力、指導力を備えた中等教育における教員
④専門職として高度な語学力と国際性をもつ企業人、公務員。
⑤専門的知識や企画力、創造力をもつＮＧＯ／ＮＰＯの職員、各領域でのコーディネーター。
【農学研究科の教育・研究の目的について】
21世紀中期に地球上の人口が100億に達すると推定される中にあって、食料生産の飛躍的増大が、人類の生存を保障するための最優先課題となってきています。また、地球温暖化に象徴される地球環境の破壊、資源の枯渇など人類の生存を脅かす事態が加速度的に進行しています。さらに、農林水産業が直面している多様な問題は時代背景や置かれた状況に応じて臨機応変に解決することが求められています。
そこで、農学研究科では、このような地球規模での社会問題の解決あるいは、さらなる農林水産業の維持・発展を目的とし、人類の衣食住の質的向上、農林水産資源の開発・蓄積・有効利用、環境修復・保全の科学を進展させるための研究に取り組んでいます。これによって、人類の生存保証を主命題として、生物資源の開発・生産・有効利用に関する、さらには、地球の生物環境保全・修復のような総合領域に関する深い学識と高度な科学技術を持つ目的指向型研究者が養成されます。そして、養成された人材は、修得した研究能力を発揮できる専門業種で即戦力型の研究者・技術者として、あるいは広い視野で問題解決ができる人材として多様な社会で活躍することが期待されます。
【医学研究科の教育・研究の目的について】
本学医学研究科における教育研究の理念と目標には二本の柱があります。うち一本は世界をリードする研究者の教育と養成であり､これまでに基礎･臨床ともに多くの世界的業績が挙げられています。柱の他の一本は研究心・探究心にあふれた臨床医師の養成であり、患者の病態や問題点を高いレベルで察知し、組織・細胞レベル、そして分子レベルまで肉薄することができる、そして従来の画一的・ガイドライン的治療概念にとらわれないで新たな疾患概念や治療体系を打ち出すことのできる、まことの臨床家の育成をめざす目標です。
研究マインドに満ちた医師でありたいという意識は研修医の３～４割が抱いていると言われます。そのニーズにも応えるため社会人入学制度を導入しております。若き医師のニーズに応える教育を行うことも本学医学研究科の理念であります。
教育内容や評価の透明性、カリキュラムの客観性、研修の検証可能性の確保といった視点でカリキュラム改革が行われています。専攻を医学系１本に統合し、全専攻分野を対象とした共通必修講義・演習を設置しています。本講義・演習では、社会人入学者に配慮した時間割を作成し、またＤＶＤ貸し出しやＷｅｂ形式などを利用することにより遠距離からの社会人入学者に対する配慮も行っています。

国内外、特に海外との交流の促進に取り組んでおり、国内他大学の大学院生や海外の研究者を大学院生として毎年受け入れています。

【生物理工学研究科の教育・研究の目的について】

生物理工学研究科では、生物・生体の優れた機能と構造を既存の学問分野である理学・農学・工学・医学の学術的基盤にもとづいて解明し、強固に確立された伝統的分野を基礎とする新しい学際的研究分野を開拓します。その結果を生物・農業・遺伝子・食品・感性・人間・生命・医療・福祉などの各工学技術に応用することで、生物学系と理工学系の科学・技術を融合し、先鋭的かつ革新的な高度最先端技術の開発をめざします。本研究科では、その開発過程において人類の福祉と環境・社会に貢献する洞察力と想像力、および持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）など自然と共生・共存する人類の文明社会が持つ課題解決を目標とする高い視座を涵養する実学教育、さらには人格の陶冶の精神に立脚した学際的教育を行うことが目的です。これにより、以下のような人材の育成をめざします。

①幅広い教養とコミュニケーション能力を備え、国際社会においてリーダーシップを発揮できる。
②高度な専門知識と方法論、技術によって社会的課題を発見して解決できる。
③柔軟な発想力と実践力を駆使して社会的要求の解決に貢献できる。
④グローバル社会に対応できる高い視座と高度な語学力で情報を収集・分析できる。
⑤高い倫理観に基づいた情報発信ができる。

【システム工学研究科の教育・研究の目的について】

システム工学研究科の教育・研究の目的は、研究者や高度専門職業人としての技術者の育成にあります。

基礎的な原理の理解や複雑な現象の解明、あるいは既存の技術の修得のもと、広い視野に立った工学の知識・技術・方法を身につけ、人間と自然が共存できる社会の構築に寄与することを教育・研究の目標としています。特に、実益的な技術との連結を重視しながら、多分野にわたる広いシステム的思考に基づいて、ますます複雑化する技術課題に、多様な解決策を提言できる研究者や高度専門職業人としての技術者の育成を目指しています。また、人間の快適な生活や福祉に役立つさまざまな製品の開発や生産技術に関して、基礎工学から専門技術までを包含した教育・研究を幅広く展開しています。複雑化を増している工学分野の様々な課題に、広い視野と探究心及び倫理観と先進的な指導力をもって果敢にチャレンジし、国際社会及び地域社会で活躍できる人材を育成します。

具体的な人材像は以下のとおりです。

①高度な工学的専門的知識と研究・調査能力を有する研究者
②高度専門職業人として企業の開発・設計・製造・品質管理等の分野で活躍する技術者
③高度な工学的専門的知識とコミュニケーション能力を有する企業人・教員・公務員

【産業理工学研究科の教育・研究の目的について】

近畿大学の建学の精神と教育の目的に即して、ハードサイエンスとソフトサイエンスの融合のもと、社会に信頼され地球環境に調和する産業科学技術の展開を図り、持続可能な循環型知識基盤社会の発展に貢献することを教育研究の理念としています。この理念のもとに、博士前期課程では、専門領域で核となる知識や技術を修得して基本的な研究能力と問題解決能力を養うとともに、関連する分野の基礎的素養を修得して、循環型知識基盤社会を多様に支えて変化に柔軟に対応できる技術者を養成します。また博士後期課程では、専門性をさらに深化させるとともに、専門領域で解決すべき課題を広く横断的に検討して、高度な専門知識と豊かな学識に裏付けされた知見や技術を新しく創出し、持続可能な循環型知識基盤社会の具現化に貢献できる研究者や専門家を育成します。

本研究科は、生物環境化学コース、電子情報工学コース、社会環境科学コースの３つのコースで構成されています。各コースのディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）を設定し、専門分野における研究者・技術者・実務家として活躍できる人材を育成します。

【医学研究科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学医学研究科における教育研究の理念と目標には二本の柱があります。うち一本は世界をリードする研究者の教育と養成であり、これまでに基礎・臨床ともに多くの世界的業績が挙げられています。柱の他の一本は研究心・探究心にあふれた臨床医師の養成であり、患者の病態や問題点を高いレベルで察知し、組織・細胞レベル、そして分子レベルまで肉薄することができる、そして従来の画一的・ガイドライン的治療概念にとらわれないで新たな疾患概念や治療体系を打ち出すことのできる、まこ

との臨床家の育成をめざす目標です。
平成16年度の新臨床研修制度の導入以降７年目を迎え、日本の医療は崩壊の危機に瀕しています。特に臨床医の即成が一義的に謀られた結果、大学院教育や医師による基礎医学研究は打ち捨てられようとしています。しかし、患者にとってまことの医師は前述の研究マインドに満ちた医師であり、そうでありたいというニーズは厚生労働省の調査によれば研修医の３～４割に依然としてあります。そこで本学ではそのニーズにも応えるために社会人入学制度を臨床系分野にも導入しました。大学院入学者数は新制度により一旦５割程度まで激しく減少しましたが、本年度は旧に復しました。そして、その半数以上がこの社会人入学制度を利用しています。
すべてに格付けを求める市場原理医療の時代を迎えようとしていますが、その中で研究マインドを涵養し、その探究心の証としての博士号を取得している医師は、博士号の無い医師より、臨床家としても当然高く格付けされるようになります。そういう医療制度の流れを理解し、そのニーズに応える教育を行うこともこれからの本学医学研究科の理念であります。
【医学研究科の学習・教育目標】
文部科学省の方針に基づき、本年度から教育内容や評価の透明性、カリキュラムの客観性、研修の検証可能性の確保といった医学研究科教育のカリキュラム改革が行われました。その骨子はこれまでの５系にわかれていた専攻を医学系１本に統合したこと、それにともない共通講義・演習を設置したこと、そしてコースワークを実現したことなどです。
すなわち、これまで指導教員に任され、客観的な検証や評価を受けなかった教育課程に透明性を確保し、研修・研究を検証可能なものにしていく端緒として、今年度より全専攻分野共通の必修として、社会人入学者にも受講可能な時間帯に講義・演習カリキュラムを新設しました。またＤＶＤなどを利用することにより遠距離からの社会人入学者に対する配慮も行っています。
文部科学省から選定された「がんプロフェッショナル養成プラン」におけるコースには、単位互換を含めて７大学の共同大学院教育コースを設置し、共通特論講義・演習も開始されています。このように社会的関心の高い特定医療技術と知識を大学院教育の中で習得させ、さらに博士号を取得させることは、例えば「がん専門の医学博士」は、臨床家としても、臨床指導者としてもより優れた者であるという国民的評価を獲得させるという前述目標に合致し、今後いくつかの分野で同様のコースが設定されようとしています。
【医学専攻のカリキュラム編成上の特色】
一般コースでは前述のように、今年度より全専攻分野共通の必修としての社会人入学者にも受講可能な時間帯に、講義・演習カリキュラムを新設しました。このコースでは研究倫理、個人情報保護と知的財産、研究立案、情報検索、実験検証、統計分析、論文執筆、論文発表などすべての研究者にとっての基本的な知識として11教科が系統的に教育され、出席確認により必修３単位が付与されることになりました。医学研究科の教育課程を重視し、その検証を可能とするコースの設置は、これまで求められてはいたが実現しておらず、今後臨床研究者あるいは専門研究者の質と業績の価値、そして大学院の社会的価値を高いレベルで標準化できると期待されています。
また、必修の実験的・臨床的研究８単位のうち２単位を共通化し、必修とすることとなりましたが、このために各専攻分野が技術の解説と実地訓練を行うコースを設定し、専攻分野にかかわらず大学院生が興味のあるコースを選択し、受講できることとしました。また、医学部共同研究施設の講習会、近畿大学医学会、博士論文公聴会、臨床研修センター主催のイブニングセミナー、医学部、医学研究科、ライフサイエンス研究所主催の学術講演会などにも参加を勧め、それを必修単位にくり込み評価していくことになっています。
がんプロコースにおいては特に社会人入学者が多く、共同講義は関西の６大学の合同講義であるために、足の便の良い大阪市内の会場で開催され、出席率は非常に高い。やはり、時代の先端分野において、専門資格を、しかも医学博士号として、数多くの臨床医師の中から抜きん出て付与されるというコースは、特にこれからの医師格差時代においては大いに魅力のあるものとなります。
【その他の特色】
教育課程を重視し、客観的評価を行うことを目的として今後導入していく予定として、複数教員の担当制、中間発表会実施、学内での複数教員による中間評価、公聴会の活性化など挙げられます。
また、国内外、特に海外との交流の促進、大学院生の短期在外研究の制度化、海外の研究者を大学院生に拡大し、医学研究科として受け入れる制度を整備します。すなわち、がんプロコースですでに

実現していますが、一般コースにおいても他大学との単位の互換が国内外で可能とする制度をめざします。

大学院教員の質的改善を目標に、基礎系分野の准教授の確保、非医師の優秀な人材の登用、講師の大学院教員化、大学院教員のＦＤの実施などが企画されています。

【実学社会起業イノベーション学位プログラムの教育・研究の目的について】

現在、持続可能な地球社会への変革のため、大学には、産業構造の変革と社会構造の不可逆的変化の時代に必要となる組織に依存しない自律したアントレプレナーシップを有する人材の養成のみならず、社会実装を具体的に意識した研究実践を背景にした研究者・高度専門職業人のキャリアパスの多様化からイノベーション創生を社会現場でおこすことのできる人材の養成機能も求められています。

そこで、本学大学院は、研究科等連係課程実施基本組織に基づく新しい学位プログラムを設置することで、既存の学問領域に限定されない学際的な（トランスディシプリナリー）アントレプレナーシップの涵養から、社会課題を主体的に探究し、その解決に向けて挑戦する知識・技術を身につけることで、学際的な学修に裏打ちされた実学的知の社会実装の実現に資する人材を養成します。そして、養成された人材は、本学のイノベーション・エコシステムの構築と発展のみならず、地域社会や国内外のイノベーション・エコシステムの持続的発展に貢献すると期待されます。